

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県村山市

自治体名：山形県村山市

担当課名：学校教育課・生涯学習課

電話番号：0237-55-2111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	197 km ²
人口	21,265 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	447 人
部活動数	21 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	検討協議会設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定 県のガイドラインに準じる

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

・少子化により、特に団体種目については学校単位でチームを編成できない状況が増えている。学校規模縮小により、部活動数の整理が必要となっており、結果として生徒が好きな種目を選択できる選択肢の保障が難しい。

・令和6年度より任意加入制に完全移行。
(入部状況については、グラフのとおり)

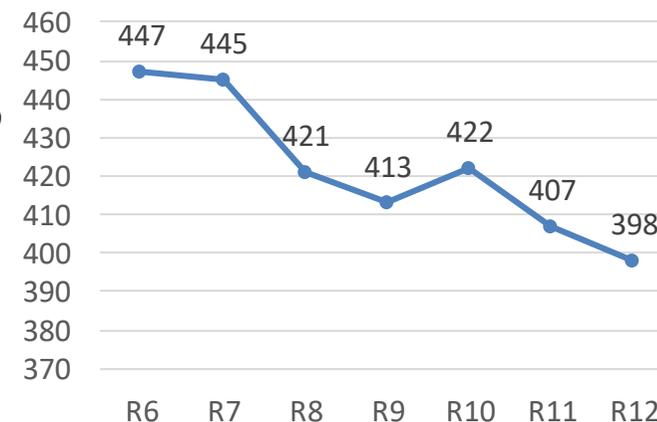
・地域展開の受け皿としての体制や、学校・保護者等との連携について、いよいよ進めていく段階となっている種目が複数ある。

・部活動は、学校教育の一環で運営するものであると生徒および保護者、競技団体関係者の認識がある。地域移行を進めるにあたり、部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要である。

・生徒及び保護者の「地域展開」に関する理解を深めていく必要がある。(部活動と地域クラブ活動の違い、生徒が自分の活動を自分自身が選択できる(していく)という意識の醸成等)

・受け皿となりうる団体はあるが、中学校部活動を補完する目的のものであり、学校部活動とは異なる独立した受け皿の形を検討中の種目も複数ある。

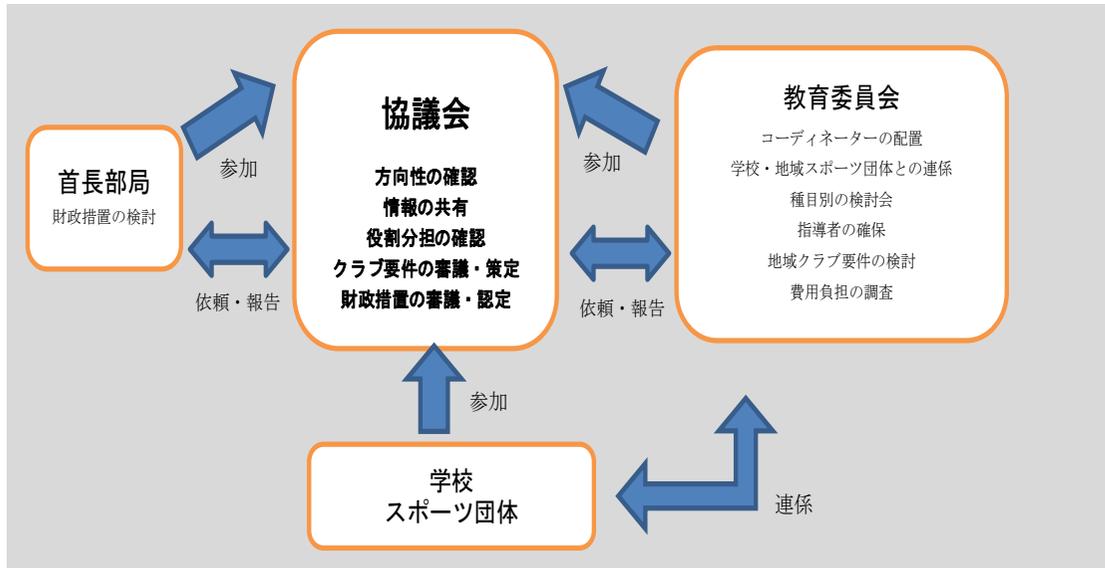
中学生の人数の変化 (R7以降は最大値で算出)



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校部活動の実施状況、部員数の把握、今後の部活動の在り方について情報収集
- ・受け皿となる地域スポーツ団体との情報交換
- ・指導者の質の保障、量の確保 ・費用負担の調査
- ・クラブ活動の要件検討・策定 ・支援対象とする要件の検討・策定

◎首長部局

- ・財政措置

年間の事業スケジュール

令和6年6月	部活動地域統括コーディネーター任用
令和6年6月～	統括コーディネーターによる情報収集等
令和6年 8月6日	第1回市運動部活動地域移行検討協議会
令和6年11月～令和7年1月	パイロット地域移行（収支構造モデル）
令和6年12月～令和7年1月	種目別検討会（野球・ソフト・バレー・バスケ・剣道・柔道・サッカー・卓球・新体操・陸上）
令和7年 1月19日	指導者講習会兼実技指導講習会
令和7年 1月25日	先進自治体視察（新庄市）
令和7年 2月5日	第2回市運動部活動地域移行検討協議会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（4 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		なし
全体の指導者数	15 人	全体の運営スタッフ数	14 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施 期間	活動 場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
徳内ふれあい スポーツクラブ (村山徳内VC)	総合型地域 スポーツクラブ	バレー (男女)	週 3~4回	平日 19~21時 休日 9~12時	3年 2人 2年 13人 1年 12人	R6 9月~	小中学校 体育館等	9 人	11 人	月会費 4,000 円	中体連 その他 →地域クラブ
北村山 ユナイテッド	地域クラブ (スポーツ 少年団)	サッカー	週 1 回 (土or日)	9:00~ 11:00	3年 0人 2年 2人 1年 11人	R6 11月 ~R7 1月	市内外 運動施設	6 人	3人 2名は指導者と 兼ねる	月会費 1,500 円	中体連 →部活動 その他 →地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 今年度の実績はなし。今後検討を進めていく。

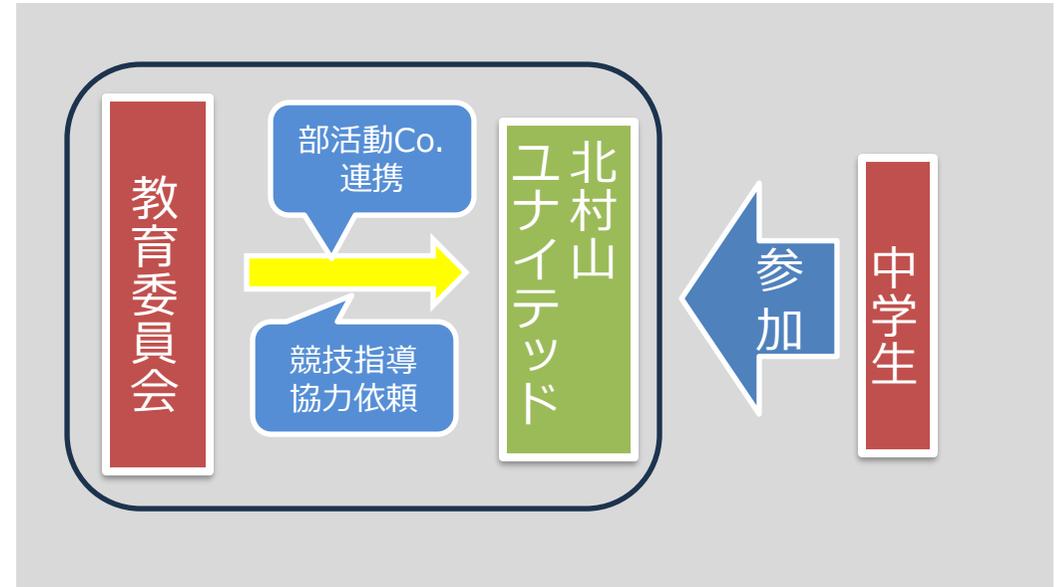
2.実証内容と成果

主な取組例

●クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	北村山ユナイテッド (村山市教育委員会)
期間と日数	サッカー：11月1日～1月31日 月4回程度(休日)
指導者の主な属性	会社員、部活動Co.
活動場所	市内外運動施設・教育施設
主な移動手段	保護者による送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	サッカー：月1,500円 (試験的实施)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 部活動統括コーディネーター
役割：団体運営全般について、協力団体事務局と連携を進め、運営する
- 指導員 6名(協力団体)
役割：競技指導および運営を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

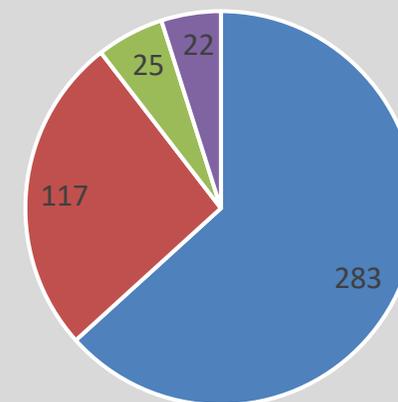
- ・検討協議会および種目別検討会の開催
- ・コーディネーターの配置
(関係団体、関係者との情報共有、部活動地域移行に関わる相談等)
- ・市内中学1年生対象アンケート
- ・市の実情を踏まえながら、要件や基準等を調整して設定し、登録・指定等を実施する。

取組の成果

- ・統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- ・関係者（競技団体・保護者代表・顧問）に同じ情報を提供したうえで、方向性の共有や、課題についての検討の一步につながった。
- ・中1対象アンケートの結果より（調査人数123名）
 - ①部活動改革の認知度62%（知っている・聞いたことがある）
→具体的な改革内容とつながっている生徒は想定よりも低かった
 - ②部活動以外の種目を選択する生徒0%
 - ③休日の部活がなくなったら「何もしない」34%
→休日の活動≠部活動と同種目というイメージが持っていない。
→休日の活動の選択肢が思い当たらないのではないかと。

部活動入部状況

(R6.6月)



- 運動部
- 文化部
- クラブ活動のみ
- 無所属

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・協議会の調整等を実施し、関係団体との連携を深めた。
- ・すべての競技団体および部活動保護者代表とつながることができた。
- ・地域展開に関わる打ち合わせ、種目別検討会の調整等を実施し、スムーズに事業を進めることができた。

今後の課題と対応方針

- 子ども自身の地域展開に関する理解を深めていく。地域展開に関わる情報を提供していく。
- 立ち上げや受け入れに関わる相談支援業務の更なる充実。
- 近隣市町村との情報交換を密にして、広域での活動の可能性を探る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

指導者研修の内容

【指導者講習会兼実技指導講習会】

- ◆ねらい◆①発達段階や多様なニーズに応えられる指導者の育成
- ②専門性の高い指導者から学び、指導実践につなげる

講師：今野 陽介 氏（健康運動指導士）

「中学生期における効果的な身体づくり（運動・栄養・休養）について」

◇講義◇

「スポーツに取り組む中学生の食事と休養、体のケアについて」

◇実技指導演習◇

「効果的なウォーミングアップと体づくりトレーニングについて」

※講師が説明した内容について、ポイントを踏まえ、参加指導者が選手に対してその場で指導する活動を軸に実施。

指導者研修の参加実績

・開催日： 1月21日 ・開催回数： 1回

・参加人数： 50人（講師・指導者15名・選手34名）

中学生の登録のある市内スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブを対象に開催要項を送付し、申込受付を行った。

参加指導者種目

・サッカー ・柔道 ・陸上

・バレーボール ・剣道

資格有無

・有資格者…10名

（JSPO公認スポーツ指導者資格等）

参加指導者（15名中）

受講者の声

○普段は聞けない話を聞く貴重な機会となった。体を動かしながら、選手と同じ立場で参加したことで、どんなことのアドバイスが必要なのか考えながら活動することができた。

○指導者が、中学生を指導する上で種目関係なく必要な専門知識について学ぶことができた。

○誤った知識や自分の経験に頼った指導をしていた部分があったことに気付かされた。このような新たな知識を得られる機会はありがたい。

◆アスリートを目指す選手向けの内容も含んでいたため、選手の理解度やモチベーションに差があった。

◆生徒とのかかわり方が難しいと思うことも増えてきたため、そのような内容の研修があるとありがたい。

今後の課題と対応方針

講師から説明があった動きについて指導者が理解し、その場で選手への声掛けを行うなど、指導者としてのスキルアップにつながる機会となった。指導者としては、今回のような実技指導に関わる講習のほかに、「中学生に対するかかわり方（指導法）」や「体罰防止研修」などについて、研修を求めているようであるため、次年度以降取り入れていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【先進自治体視察研修】

◆ねらい◆R6年度より休日部活動の完全移行を実施している自治体を視察することで地域移行に対する認識・具体的なイメージの共有を図る。今後の展望を検討する上で必要な情報を得る機会とする。

◇視察先◇新庄市（サッカー・バレーボールの地域クラブ）

◇内 容◇活動視察・指導者、クラブ代表との情報交換

受講者の声

・教育委員会も入ったので視察だったので、運営面で工夫していることや課題について聞くことのできる貴重な機会となった。資金面の支援については、自治体によるもののみではなく、企業等による支援というアイデアがあることについて実際に話を聞いたのはありがたかった。

・地域移行に関わるイメージがもてる視察だった。学校部活動の補完という形や、学校関係なくその種目をやりたい子どもが集まる形など、実際の状況や必要性によって考えていくことも大切だと感じた。

・活動できる場所があること、活動するためのものがあることはとても大切であると改めて分かった。

・クラブ運営側が工夫を凝らしながら、子どもたちの活動できる場を作っているということを再認識することができた。

指導者研修の参加実績

・開催日： 1月25日

・開催回数： 1回

・参加人数： 8人（指導者のみ）

中学生の登録のある市内スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブを対象に開催要項を送付し、申込受付を行った。

今後の課題と対応方針

・減免を受けられる、練習できる場所があるということは、クラブ運営するうえで重要であることが分かったため、施設利用に関わるシステムや規程について修正や検討を進める必要がある。

・行政の支援として、「広報活動」「施設利用減免」がベースとなっていることであつたため、広報活動（情報発信）にも力を入れることが求められる。

・持続可能なクラブ運営を促すためのアドバイスや助言をコーディネーターが行うことも有益なのではないかと考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

・地域クラブの運営に当たって、持続可能な仕組みづくりを行う必要性が高いことから、「休日移行に伴う支出の変化」について、謝金を含むクラブ運営を一定期間実施した。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

(前身団体より引き継ぎ)
なし

■ランニングコストの分析

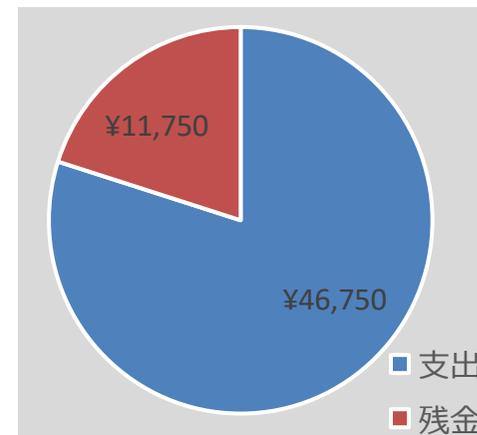
- ・指導者謝金 (37,000円)
- ・教育施設・市内外運動施設使用料～照明代込～ (6,750円)
- ・大会参加費 (3,000円)

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

休日の受け皿となった場合に、持続可能な運営に必要な受益者負担について、試算を行った。

(検証結果詳細は次々ページ)

収支バランス



3カ月間実施

- ・選手数…13人
 - ・指導者数…5人
 - ・受益者負担 月1,500円
- <収入> 58,500円
<支出> 46,750円

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

実際収支

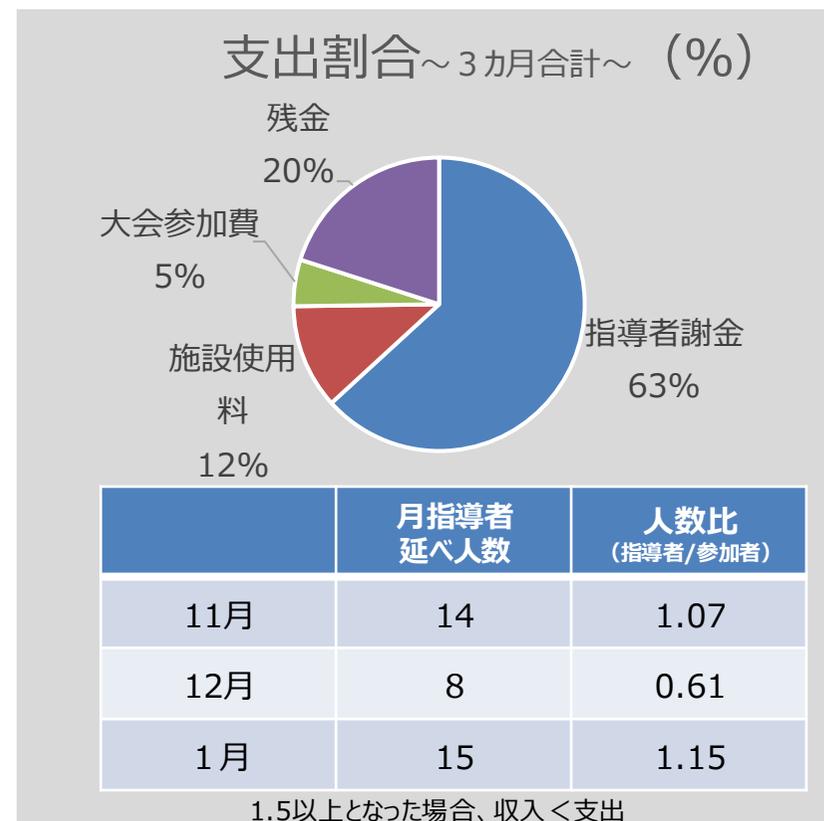
月	日	項目	摘要	収入額	支出額	差引残高	備考
11	1	1	会費収入	19,500		19,500	1,500円×13名
11	2	4	コバルト杯サッカー大会参加費		3,000	16,500	
11	4	3	施設利用料(東根市中央運動広場)		1,550	14,950	
11	9	3	施設利用料(東根市中央運動広場)		2,600	12,350	
11	16	3	施設利用料(東根市中央運動広場)		2,600	9,750	
12	1	2	指導者謝金		14,000	-4,250	11月の指導(1回1,000円で延べ14人)
12	1	1	会費収入	19,500		15,250	1,500円×13名
1	4	2	指導者謝金		8,000	7,250	12月の指導(1回1,000円で延べ8人)
1	4	1	会費収入	19,500		26,750	1,500円×13名
2	3	2	指導者謝金		15,000	11,750	1月の指導(1回1,000円で延べ15人)
				58,500	46,750	11,750	

1回指導謝金1,000円

今後の課題と対応方針

- ・休日の機会確保という面における1つモデルケースとなったが、内容の更なる充実を目指す等のクラブ運営方針によって、支出額が増える可能性が高いことが分かった。
- ・クラブ運営方針と受益者負担額の関係性について、情報提供・助言等を行い、持続可能な活動体制の構築を支援していく。

- ・ランニングコスト重視の収支構造としては、おおむね妥当な見通しが持てた。
- ・謝金を含めた運営を目指す場合には、「参加者と指導者の人数比」、「低廉な受益者負担」等の値が活用できそうである。
- ・期間中の支出がおおむね安定的であったが、試算を進めていく中で、年度初めの大きな支出（保険・登録・大会申し込み・人数増による消耗品等の購入）を見越した支出計画や、受益者負担額の設定を行う必要性を再認識した。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

資料

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算（謝金1回1600円想定）

月	日	項目	摘要	収入額	支出額	差引残高	備考
11	1	1	会費収入	19,500		19,500	1,500円×13名
11	2	4	コバルト杯サッカー大会参加費		3,000	16,500	
11	4	3	施設利用料(東根市中央運動広場)		1,550	14,950	
11	9	3	施設利用料(東根市中央運動広場)		2,600	12,350	
11	16	3	施設利用料(東根市中央運動広場)		2,600	9,750	
12	1	2	指導者謝金		22,400	-12,650	11月の指導(1回1,600円で延べ14人)
12	1	1	会費収入	19,500		6,850	1,500円×13名
1	4	2	指導者謝金		12,800	-5,950	12月の指導(1回1,600円で延べ8人)
1	4	1	会費収入	19,500		13,550	1,500円×13名
2	3	2	指導者謝金		24,000	-10,450	1月の指導(1回1,600円で延べ15人)
				58,500	68,950	-10,450	

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算（謝金1回1300円想定）

月	日	項目	摘要	収入額	支出額	差引残高	備考
11	1	1	会費収入	19,500		19,500	1,500円×13名
11	2	4	コバルト杯サッカー大会参加費		3,000	16,500	
11	4	3	施設利用料(東根市中央運動広場)		1,550	14,950	
11	9	3	施設利用料(東根市中央運動広場)		2,600	12,350	
11	16	3	施設利用料(東根市中央運動広場)		2,600	9,750	
12	1	2	指導者謝金		18,200	-8,450	11月の指導(1回1,300円で延べ14人)
12	1	1	会費収入	19,500		11,050	1,500円×13名
1	4	2	指導者謝金		10,400	650	12月の指導(1回1,300円で延べ8人)
1	4	1	会費収入	19,500		20,150	1,500円×13名
2	3	2	指導者謝金		19,500	650	1月の指導(1回1,300円で延べ15人)
				58,500	57,850	650	

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・地域スポーツクラブ活動のために学校施設を使用する場合の優先利用や使用料減免等の仕組みを検討する。

取組の成果

前述した収支構造の検証によると、支出の主な項目として「施設使用料」があげられることが分かった。

また、既存団体が受け皿となる場合は、減免措置を受けているケースがほとんどであるが、新たに受け皿として立ち上げるケースについては、体制整備やイニシャルコストもかかることが想定されることから、減免措置を受けられるかどうかは、クラブ運営の見通しの持ちやすさに影響があると考えられる。

今後の課題と対応方針

検討協議会や種目別検討会でもアイデアが出たように、休日の部活動が実施されていた時間帯の扱いについて、調整していく、減免内容の拡充等も視野に入れた新たなシステム構築や、これまでの規程の見直し・

施設	利用団体	中学生所属団体	中学校関係者使用率
楯岡中	18	10	55.5%
葉山中	13	6	46.1%

修正等を図る見通しである。

その際、「受け皿となる団体」の定義（認定要件）についての検討との整合性やバランスをとりながら立案していく必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和5年度は、市内の状況や指導者や団体の情報を収集することが主な取り組みとなった。

令和6年度は、前年度の成果を踏まえ、市内関係者に対する周知や理解を進めるための第一歩として、具体的な取り組み（検討協議会・種目別検討会・指導者講習会・先進自治体視察など）を計画・実施した。

関係者の認識に違いがある可能性が高いことを踏まえ、

- ①「部活動の定義や位置づけ」
- ②「部活動改革（地域移行含む）とは」
- ③「教員の働き方改革と地域移行」

について、団体等の代表者に説明し、理解を得たり、共通の認識を持つことに重点を置いた。

今年度実施した地域クラブ活動は、部活動募集停止後も活動できる場所となったり、部活動の設置有無によらない活動機会が確保できたりと、生徒たちにとって貴重な選択肢となった。学校部活動の枠にとらわれず、地域資源（指導者・団体等）を活用して活動したことで、生徒の自主的な活動が広がるというメリットについて事例を紹介しながら地域展開を進めていきたい。

●成果の評価

4種目（バレーボール、柔道、剣道、サッカー）における地域クラブ実施を目指した

◇成果◇

バレーボール・サッカー…パイロット実施実行（内、サッカーは収支構造実証含む）
柔道・剣道…地域クラブ実施には至らなかったが、それぞれ7年度初めより地域クラブ活動が進められる見通しとなった。（関係団体同士の調整や、保護者等への説明・理解を実態に応じて丁寧に進め、方向性の修正を行いながら進めたため）

◇検証方法に基づく評価◇

- ①地域クラブ認定要件…○原案の立案と検討協議会での提案・検討が行われた。
- ②地域クラブにおける市の財政支援基準…▲支援の根拠となる情報不足と判断
- ③指導者の資格、指導者講習会…○要件の原案に記載。○講習会を実施できた。
- ④アンケート調査実施…○生徒、保護者代表、競技団体代表へのアンケート実施
▲指導者、受け皿団体、小学生へのアンケートも検討

●今後に向けて

- ・地域展開にあたり、受け皿となる地域に指導者や団体が見当たらない種目もある。本市内のみで進めることには限界があり、近隣自治体と連携しながら体制整えていく必要がある。
- ・令和8年度に休日の地域展開完全実施を目指しており、今年度は昨年度地域展開実施まで進んでいない種目について、積極的な取り組みを進め休日の地域展開につなげたいと考えている。

アンケート結果①

●アンケート内容と考察

アンケートのお願い		別紙
<p>村山市が進める「部活動改革(部活動地域移行)」について、村山市内中学校1年生の皆さんにアンケートをお願いいたします。それぞれの質問の当てはまるものを○で囲んでください。</p>		
質問1	あなたは部活動改革(部活動地域移行)について、知っていますか？	
ア	知っている ※ 質問2に進んでください	
イ	聞いたことがある ※ 質問2に進んでください	
ウ	知らない ※ 質問3に進んでください	
質問2	あなたは部活動改革(部活動地域移行)について、どんなことを知っていますか？ 当てはまるものを全部選んでください。	
ア	部活動が任意加入制になったこと	
イ	令和8年度から原則として休日に部活動を行わなくなる	
ウ	休日の部活動の代わりに場(地域クラブ活動)が準備されること	
エ	学校の部活動と休日の活動は違う競技(文化活動)を選ぶことができること	
オ	自分が通う学校以外の生徒と一緒に活動できること	
カ	指導者への謝金など、新たにお金が必要になる場合があること	
キ	その他(具体的に記入してください)	
<div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div> <p>※ 質問3に進んでください</p>		
質問3	あなたは休日に部活動を行わなくなった場合、どうしたいと考えていますか？ 当てはまるものを1つ選んでください。	
ア	部活動と同じ競技・文化活動を行いたい	
イ	部活動とは違う競技・文化活動を行いたい	
ウ	学習塾などに通って勉強したい	
エ	休日はゆっくりしたいので、なにもしない	
オ	まだわからない	
<p>※ 質問4に進んでください</p>		
質問4	部活動改革(部活動地域移行)について楽しみ(期待する)ことはありますか？	
ア	楽しみなことがある ※ 質問5に進んでください	
イ	楽しみなことは思いつかない ※ 質問6に進んでください	
<p>※ 裏面にも質問があります</p>		

質問1・質問2より

- (1) 「部活動改革(部活動地域展開)」について「知らない」と答えている生徒が約37%いる。もっと広報していく必要がある。
- (2) 「部活動改革(部活動地域展開)」の2つの大きな柱である「部活動が任意加入制になること」と「令和8年度から学校部で活動を行わないこと」については理解度が高い。
- (3) 「部活動改革(部活動地域展開)」の重要なキーワードの一つが『選択できること』であるが、「休日の活動は、学校の部活動とは違う活動ができること」に対する周知が進んでいないことは課題である。

質問3より

- (1) 休日については、「部活動と同じ競技・文化活動をしたい」と「休日はゆっくりしたいので、何もしない」にほぼ2分される。「勝ちたい、入賞したい、技能や体力を高めた」という従来の部活動の考え方とは、異なる価値観をもった生徒が増えていると感じる。
- (2) 上記1(3)同様に、「部活動と同じ競技・文化活動」「ゆっくり休む」以外に、中学生の時期に多様な体験を行うことができるという部活動改革の目指す姿も示していくことも必要かと考えられる。

質問4より

- (1) 「楽しみなことが思いつかない」という回答が「楽しみなことがある」という回答を大きく上回っている。具体的なイメージが持てないことが原因ではないかと考えられる。

アンケート結果②

●アンケート内容と考察②

質問5 部活動改革(部活動地域移行)について、どんなことが楽しみですか？

当てはまるものを全部選んでください。

- ア 地域の専門の指導者に指導してもらえる
- イ 他校の生徒と一緒に活動できる
- ウ 多人数でいろいろな活動ができる
- エ 部活動とは違った競技・文化活動ができる
- オ その他(具体的に記入してください)

※ 質問6に進んでください

質問6 部活動改革(部活動地域移行)について、心配なことがありますか？

- ア 心配なことがある ※ 質問7に進んでください
- イ 心配ことはない
- ウ よくわからない

質問7 部活動改革(部活動地域移行)について、どんなことが心配ですか？

- ア 部活動改革(部活動地域移行)全体のこと
- イ 指導者のこと
- ウ 自分がやりたい内容や求めるレベルと合うか
- エ 他校の生徒と一緒に活動すること
- オ 自分自身の心や身体のこと
- カ 家庭の負担に関すること(送迎・費用など)
- キ 大会参加のこと
- ク その他(具体的に記入してください)

ご協力ありがとうございました。

質問5より

- (1) 他校の生徒一緒に活動できたり、専門的な指導が受けられたりという前向きな回答がある一方で、自由記述では、休日に部活動がないことで自由に使える時間が増えることを楽しみにしている生徒もいることがわかる。

質問6・7より

- (1) 心配なことがあるという生徒は思ったよりも少ない。
- (2) 心配なこととしては、「自分自身の心や体のこと」が最も多く、次に多いのは「自分がやりたい内容や求めるレベルとあうか」であった。体力面での不安や活動内容に対する不安が大きく、事前の見学会や体験会の必要性を感じる。
- (3) 自由記述欄の内容は、現在の部活動に関する疑問や不安が主であった。部活改革の受け皿となる団体活動に対しても、同様の疑問や不安を持つことが十分の予想されるので、相談先を整備していくことも必要となるだろう。

アンケート結果・広報資料

村山市が進める部活動改革

問合せ：学校教育課 内線 327

部活動の改革とは

中学生がやりたいスポーツ・文化活動ができるよう
環境を整備する

なぜ部活動改革を行うのか

部活動は、これまで生徒たちの成長に大変有意義なものとして位置付けられ、70年近く学校の教育活動の一部として行ってきました。しかし、昨今部活動をこれまで通りの形で維持していくことに、次のような課題が見えてきました。

- 少子化 = 学校でチーム編成できず、大会に参加できない。
好きな部活を選べない。
- 主体性 = 希望する部活動を選べず、積極的に活動できないことがある。
全員加入制のため、自分のやりたいことに挑戦することが難しい。
- 専門性 = 教員が経験のない部を担当することもあり、専門的な指導ができない。
- 働き方改革 = 教員の長時間勤務の一因になっている。

生徒たちを中心に考えてみると、部活動を維持しつつ、これらの課題を同時に解決していかなければなりません。

そこで、文部科学省からは

令和8年度をめどに「休日の部活動を地域に移行する」という方針が示され、市では次の2点について改革を行っていくこととしました。



1 令和6年度から、市内中学校の部活動を任意加入制にします。

学校外を含め、生徒が自分の興味に応じたスポーツや文化活動、学習などを選択できるように、部活動加入そのものを選択できるようにします。

2 休日にもスポーツや文化活動をしたい生徒のために、令和6・7年度の改革推進期間で、地域を主体とした活動機会を提供できるしくみを作っていきます。

地域を主体とした活動が可能となったものから、段階的に地域での活動を始めていきます。

地域の皆さんへ

市内の中学生が主体的にスポーツや文化活動に取り組むことができるように、専門的な知識や技能を生かして、休日に指導してくださるご協力をお待ちしています。

【地域への啓発チラシ】

出典：村山市市報「市民の友」R6.3.15号

中学校の部活動が大きく変わっています

来年4月に中学校入学を控えた6年生の皆さん、中学校生活の大きな関心事の一つに「部活動」があるかと思います。その部活動が現在大きく変わりつつあります。では、どのように変わっているのか説明していきます。

変わるところ① 部活動が「任意加入制」になりました



令和6年度から

中学校の部活動に必ずしも入部する必要はありません。中学校の部活動に加入して活動することもできますし、学校の部活動ではできない活動(スイミングクラブ・ピアノ教室・学習塾など)を学校以外で行うこともできます。

変わるところ② 令和8年度から、休日は学校で部活動を行いません

これまで

休日は、顧問の先生の指導の下、土日のどちらか1日、3時間程度の活動を行う部活動が多くありました。



学校では、休日に部活動は行わないようになります。ですから、自分がやりたい活動を選び、活動します。

部活動と同じ活動でもいいですし、部活動とは違った活動でもかまいません。また、家の手伝いをしたりしながら家族の一員として過ごしたり、好きなイラストを描いたりという休日の過ごし方も考えられます。

休日の活動の場としては、民間クラブや総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団や文化団体などが挙げられます。



平日及び休日の活動のイメージ

活動のパターンの例(令和7年度)

	平日	休日
Aさん	部活動	部活動
Bさん	所属なし	所属なし
Cさん	地域クラブ活動	地域クラブ活動

活動のパターンの例(令和8年度～)

	平日	休日
Aさん	部活動	地域クラブ活動
Bさん	部活動	所属なし
Cさん	地域クラブ活動	地域クラブ活動
Dさん	地域クラブ活動	所属なし
Eさん	所属なし	地域クラブ活動
Fさん	所属なし	所属なし

※ 左の表の「地域クラブ活動」は、
① 民間のクラブ(サッカー・ラグビー・バレーボールなど)
② 総合型地域スポーツクラブ
③ スポーツ少年団
④ 文化団体(ピアノ・合唱・民謡・書道など)などが考えられます。



中学校の部活動改革に伴う「ムララクラブ」の設立について(案)

村山市教育委員会

ダイジェスト版

① 『ムララクラブ』とは

中学校の部活動改革に伴い、「スポーツ少年団」や「総合型地域スポーツクラブ」などの受け皿となる団体がいない場合に、中学生に活動の場を提供するために新たに立ち上げる組織。

部活動改革に伴う「ムララクラブ」設立のためのチェックシート

村山市教育委員会

国や県の方針に沿って村山市が進める部活動改革で、中学生の活動の受け皿となる「地域クラブ」を設立するための要件を満たしていることを確認するためのチェックシートです。

項目	内容	詳細
理念	① 目的	<input type="checkbox"/> スポーツや文化活動の場の提供を通して、参加する市内中学生の自己肯定感の育成、体力や技能の伸長、異年齢交流を通じた社会性の涵養などを目的とした団体であること
	① 規約(会則)	<input type="checkbox"/> クラブとしての規約(会則)があること

【地域クラブ認定要件(案)】

出典：第2回市運動部活動地域移行検討協議会資料

【新入生説明会資料】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【市運動部活動地域移行検討協議会】



【視察研修（情報交換場面）】



【指導者講習会兼実技指導講習会（実技指導研修場面）】



【指導者講習会兼実技指導講習会（講義場面）】

参考資料（活動写真）



【クラブ活動の様子（サッカー）】

参 考 資 料

昨年度(R 5)の実態調査を踏まえて、現段階で考え得る休日の部活動の地域移行の方向性(R 6. 7月現在)

部活動改革における 競技ごとの動きについて

- ◆平日はこれまで通り、部活動が行われます。(曜日は学校によります)
- ◆令和8年度から休日の部活動を行いません。

村山市教育委員会

※ただし、状況が整った種目については前倒しで実施することもあります。



野 球

- ◆R 8からの休日部活動の地域移行に向けてこれから準備に入ります。R6, 7はこれまで通り部活動が行われます。
- ◆市野球連盟と連携して休日の活動の受け皿となる地域クラブの設立を検討中です。



ソフトボール

- ◆R 7からの休日部活動の地域移行に向けて準備を行っています。R6はこれまで通り部活動が行われます。
- ◆近隣市町で立ち上げを進めている広域募集の地域クラブの情報収集を進めています。



陸上競技

- ◆R 8からの休日部活動の地域移行に向けてこれから準備に入ります。R6, 7はこれまで通り部活動が行われます。
- ◆市内総合型地域スポーツクラブ等に入っている活動が可能です。



バレーボール

- ◆R 6内の休日部活動の地域移行対応を進めています。
- ◆総合型地域スポーツクラブ「むらやま徳内ふれあいスポーツクラブ」が休日の練習機会の提供を開始しています。



バスケットボール

- ◆R 8からの休日部活動の地域移行に向けて準備中です。R6, 7はこれまで通り部活動が行われますが、各学校区でスポーツ少年団等での受け入れを目指して調整中です。



柔 道

- ◆R6内の休日部活動の地域移行に向けて準備中です。
- ◆市柔道連盟と連携して、休日の練習機会を提供できるよう調整予定です。



剣 道

- ◆R6年度内の休日部活動の地域移行に向けて準備中です。
- ◆市内のスポーツ少年団と連携して、休日の練習機会を検討中です。



卓 球

- ◆R7年度中での休日部活動の地域移行に向けて準備中です。
- ◆市内のスポーツ少年団等に指導を担ってもらえるよう依頼する予定です。



サッカー

- ◆市内外から受け入れる地域クラブが立ち上げられています。



新体操

- ◆「むらやま新体操教室」と連携して、平日は部活動と新体操教室の併用し、休日は月1で新体操教室で活動することができます。



吹奏楽

- ◆R8からの休日部活動の地域移行に向けて、これから準備に入ります。R6, 7はこれまで通り部活動が行われます。



文化部

- ◆地域の文化団体と連携して、休日の講座等のお知らせを配付しました。また、少年少女合唱団もスタートしました。



水 泳

- ◆これまで通り、学校では部活動を行いません。スイミングスクールで練習に励んでください。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



教育委員会に部活動地域移行統括コーディネーターを配置。

<教育委員会内にて次の点を確認>

- ・令和8年度から休日の活動について完全地域移行する。
- ・生徒の多様なニーズに対応し、自主的な活動を担保するための地域クラブであること。
- ・学校では令和6年度から部活動を任意加入制に変更。
- ・令和5年から7年までの準備期間で、地域移行できそうなところから順次実施開始すること。

<課題>

- ・少子化により、学校部活動をそもそも組めない状況の中、本市のみですべての種目でクラブを立ち上げ活動を保障することは難しい。
- ・指導者の確保ができない。
- ・実際に活動する場合の責任の所在などを決めなくてはいけない。
- ・種目ごと置かれている現状が異なり、個別に対応していく必要がある。

(令和6年)

- ・協議会（教育委員会、学校、地域のスポーツ団体、首長部局で構成）を設置し、目標とスケジュール、課題の解決策について協議し、左記の課題の解決に図る。
- ・種目別検討会の実施
→指導者の確保・選定や指導体制の構築等、実施に向けて課題解決していく。
- ・指導者の質の担保・向上
→先行地区への視察と指導者講習会の実施。
- ・地域移行が可能な種目について先行実施し、地域移行の気運を高めていく。

(令和7年)

- ・地域クラブ活動を実施しながら、令和8年度以降に向けた情報を収集する。
- ・令和6年度で解決できなかった課題をクリアする。

【持続可能な体制の整備】

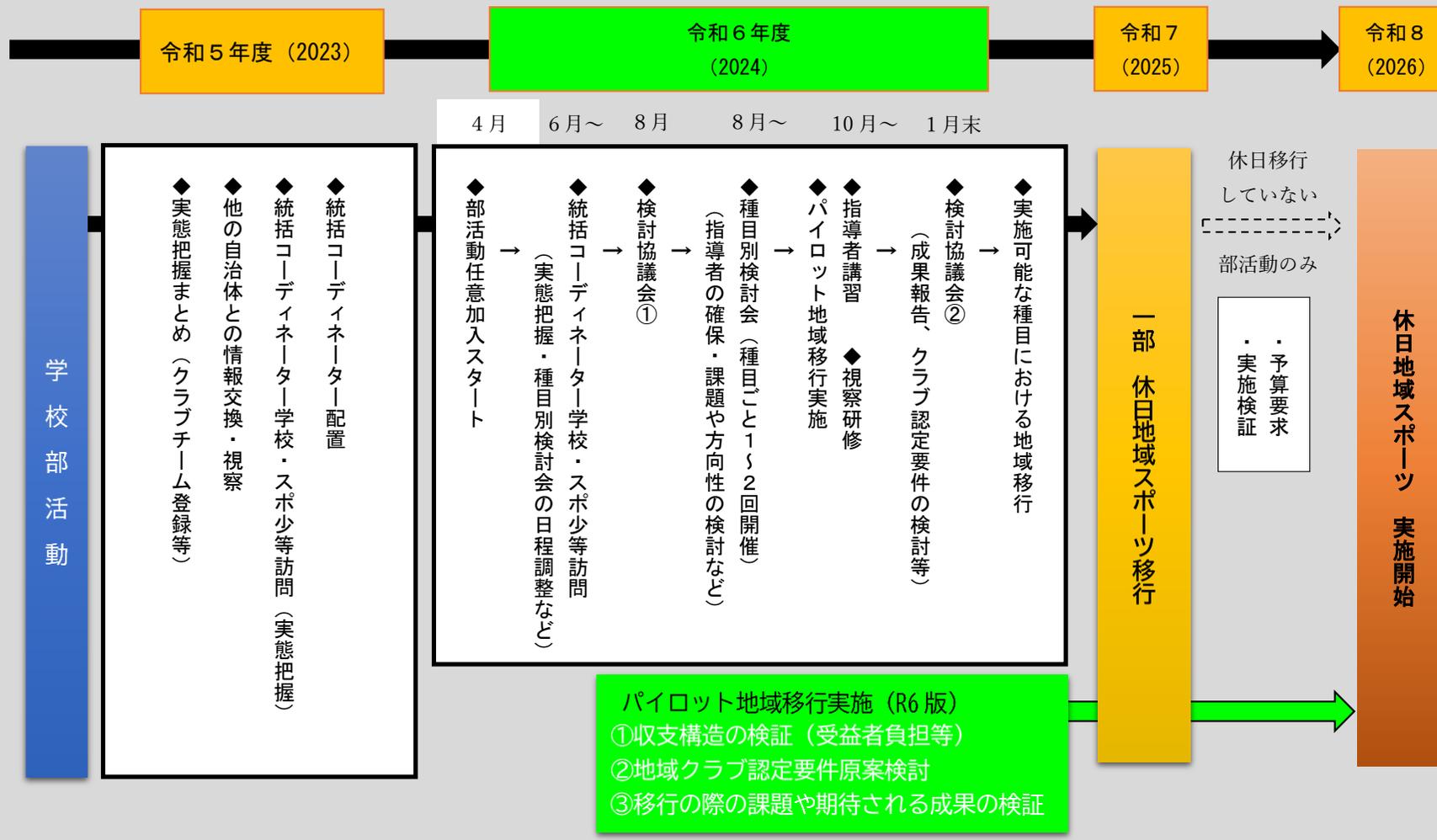
- ・指導者の確保
- ・受益者負担による継続的な運営
- ・学校と地域クラブの活動内容の連携
- ・課題解決
- ・新たな価値創出に向けた機会の提供

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

村山市の考え方

令和8年からの完全実施を目指す



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県 長井市

自治体名 : 山形県長井市

担当課名 : 教育委員会学校教育課

電話番号 : 0238-82-8024

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	214.69km ²
人口	24,826 人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	614人
部活動数	32 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市では、運動部活動が32(男女で活動している部活を1つとみなすと25部)あり、令和5年度まで全員加入制として基本的にはいずれかの部活動に所属している状況であった。部活動の顧問については、半数の職員が競技歴のない種目の顧問をしているため、専門的な指導に関して課題がある状況である。

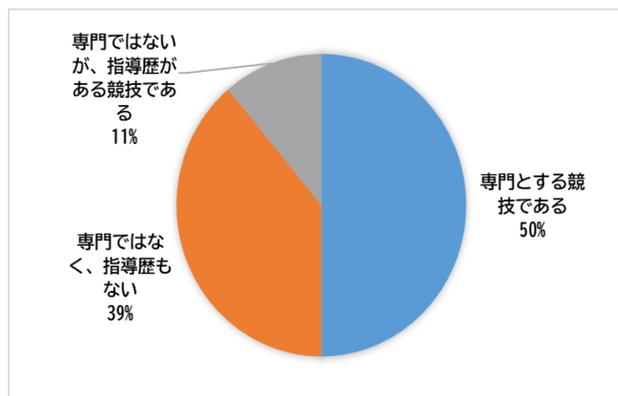
生徒数の減少によって、令和6年度の中体連新人大会に合同チームとして出場した部活は2部(サッカー部、ソフトボール部)となっている。令和6年度より長井市を含む西置賜地区内の中学校は、部活動の任意加入制へと変更したことから、今後部活動所属生徒数の更なる減少

も予測される。

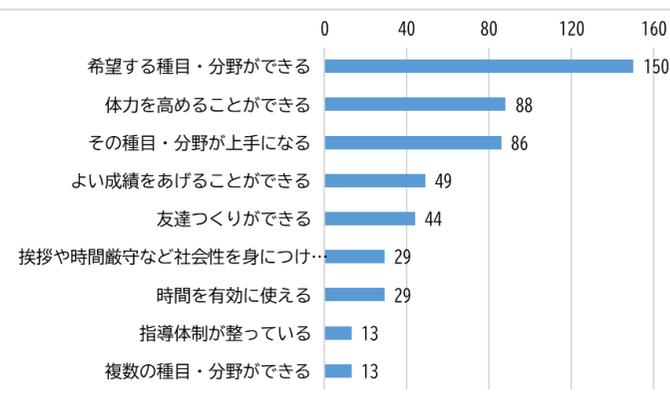
地域展開については、令和8年度から休日の部活動の廃止及び地域展開による活動実施を目指している。

令和6年度実施の中学生アンケート調査では、部活動に求めるものとして、「希望する種目があること」や「体力を高めること」などが上位となっている。これらのことから、任意加入や休日の地域展開に際して、地域内で多様な団体・種目が中学生の活動を実施することが求められる。その他、専門性のある指導者の確保や参加料の負担軽減、活動場所の確保等、今後クリアすべき課題への対応が必要となっている。

〈部活動顧問の専門性〉 R6アンケート調査より



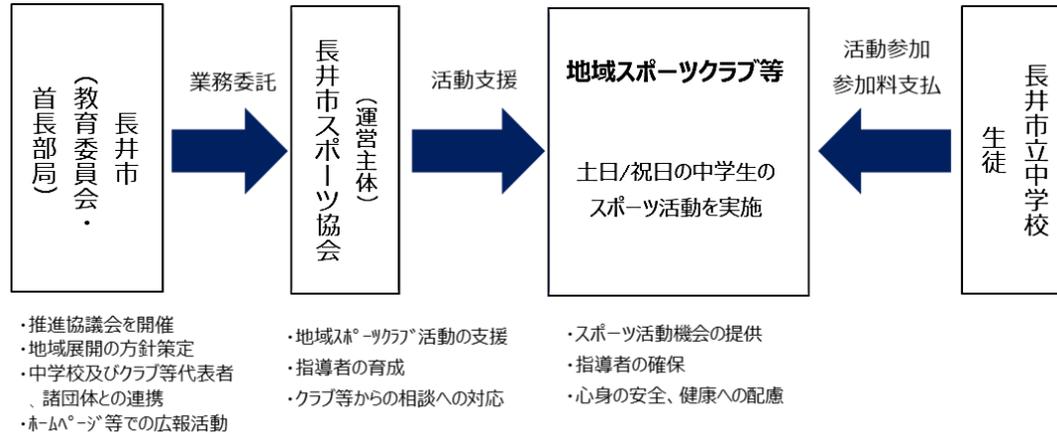
〈中学生が部活動に求めるもの〉 R6アンケート調査より



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育委員会と首長部局が連携し、部活動の地域連携に向けて実証事業に取り組む。
- ・総括コーディネーターを配置し、地域のスポーツ活動環境の整備に向けて各関係機関と連絡調整を図り、推進計画等を策定しながら地域スポーツ活動環境を整備していく。

◎首長部局

- ・地域で持続可能なスポーツ活動環境を整備していくことで、生涯スポーツの視点から、生涯にわたってスポーツに親しむ市民の育成につなげていく。
- ・市民の健康増進の観点から、技術や基礎体力、精神力等の向上を図るための専門的な指導が可能な指導者を育成していく。

年間の事業スケジュール

令和6年4月	庁内における体制の確認、打合せ
令和6年5月	関係団体、地域クラブ等とのヒアリング 部活動加入状況の確認
令和6年6月	再委託に向けた打合せ等の実施
令和6年7月	第1回スポーツ芸術文化活動環境整備 推進協議会の開催、 中学生向けアンケート調査の実施
令和6年8月	市スポーツ協会による実証事業参加団 体の募集、決定 地域クラブ等代表者会の開催 (実証事業内容説明、県中体連参加 登録手続き等の共有)
令和6年9月	県部活動改革研修会への参加
令和6年10月	県中体連参加登録等説明会への参加 県地域クラブ等指導者研修会への参加
令和6年12月	児童生徒・保護者向け地域クラブ等情 報提供
令和7年1月	地域クラブ等情報の市HP掲載、実証事 業実績確認、次年度事業打合せ
令和7年2月	地域代表者等への状況説明 実証事業完了報告・実績報告
令和7年3月	第2回スポーツ芸術文化活動環境整備 推進協議会の開催(予定)

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	10クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域展開した形のクラブ数（及び地域展開された部活動数）		8クラブ（17部活）
	B：部活動を地域展開する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	48人	全体の運営スタッフ数	0人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
FCバレンティア	総合型地域スポーツクラブ	サッカー	月8回	9:00～12:30	中1 6名 中2 5名	R6.10月～12月	長井市生涯学習プラザ、長井南中学校ほか	3人	0人	月会費 2,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
BASIC	地域スポーツクラブ	卓球	月8回	17:00～21:00	中1 2名 中3 6名	R6.7月～11月	長井市民体育館	6人	0人	月会費 3,000円～6,000円 (参加回数により変動)	中体連：部活動 その他：地域クラブ
Famties	地域スポーツクラブ	ダンス	月8回	17:00～20:40	中1 2名	R6.7月～12月	自クラブ施設	3人	0人	月会費	中体連：なし その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
キングローズ	地域スポーツクラブ	バスケットボール	月4回	9:00～12:30	中1 6名 中2 5名	R6.7月～12月	長井南中学校、長井北中学校	12人	0人	月会費 8,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
長井弓道会	地域スポーツクラブ	弓道	月4回	16:30～19:00	中1 4名 中2 1名	R6.7月～12月	長井弓道場ほか	3名	0人	年会費 3,000円	中体連：なし その他：地域クラブ
長井バレーボールクラブ	スポーツ少年団	バレーボール	月8回	9:00～12:00	中1 19名 中2 6名 中3 12名	R6.7月～11月	長井小学校、平野小学校	2名	0人	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
長井レッドウィングス	スポーツ少年団	ソフトボール	月8回	8:00～12:00	中1 4名 中2 4名 中3 3名	R6.7月～12月	長井小学校、致芳小学校	3名	0人	年会費 24,000円	中体連：地域クラブ、 その他：地域クラブ
長井中央柔道スポーツ少年団	スポーツ少年団	柔道	月4回	9:00～12:00	中1 1名 中2 2名 中3 1名	R6.7月～9月	長井市武道館	7名	0人	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
長井ソフトテニススポーツ少年団	スポーツ少年団	ソフトテニス	月4回	9:00～12:00	中1 5名 中2 5名 中3 1名	R6.8月～9月	市営テニスコート	2名	0人	年会費 12,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
西置賜野球スポーツ少年団	スポーツ少年団	野球	月8回	19:30～21:00	中1 3名 中2 8名 中3 6名	R6.7月～12月	長井市営野球場、長井小学校ほか	7名	0人	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

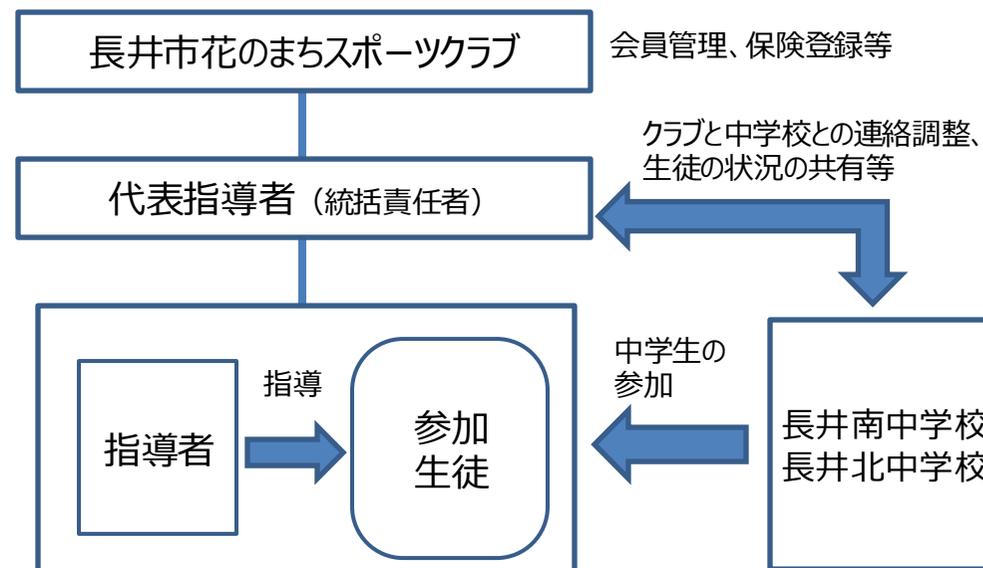
2.実証内容と成果

主な取組例

●FCバレンティア 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	長井市花のまちスポーツクラブ
期間と日数	サッカー：10月5日～12月7日 16回（月8回程度）
指導者の主な属性	長井市花のまちスポーツクラブ職員、市民
活動場所	長井市置賜生涯学習プラザ 長井南中学校ほか
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	24,000円（月会費2,000円）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
役割：クラブの運営管理全般を担うとともに、代表者として中学校や他団体との協力や連絡調整を行う。
- 指導者 2名
役割：活動に関する生徒・保護者への諸連絡や活動内容の検討、活動場所の調整、道具等の準備、実施を担う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・部活動地域移行コーディネーターを配置し、中学校及び地域クラブ等との情報共有を綿密に行い、生徒がより良い活動ができる体制を構築していく。
- ・生涯スポーツ施策所管課の健康スポーツ課と協力を得て、各スポーツ少年団に中学生の活動実施を促す。また、市スポーツ協会に再委託し、実証事業参加団体の活動を支援していく。

取組の成果

コーディネーターをハブとして学校や地域クラブ等との連絡調整や健康スポーツ課及び長井市スポーツ協会との協力体制の構築により、令和6年度は10の団体が実証事業に取り組むことができた。

このことにより、令和5年度までは地域展開に取り組む部活動が18部だったが、令和6年度末では21部とすることができた。このほか、新たな活動としてダンスと弓道が中学生の活動を開始した。従来の部活動にはない種目についても中学生の活動機会が生み出されたことで、多様な活動を求める中学生のニーズに対応することができた。

持続可能な中学生のスポーツ環境の整備に向けて、7月17日にスポーツ協会、スポーツ少年団本部、校長会会長、地区中体連会長、PTA代表、部活動指導員等で構成される長井市スポーツ文化活動環境整備推進協議会を設置し、幅広い視点から情報共有と協議を重ねることができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

中学校、中学生の活動を開始した又は検討している地域クラブ等、主な活動場所となる公共施設等とのヒアリングを実施し、情報共有を行った。また、生徒自身に地域クラブ等の活動内容等をわかりやすく伝えるための資料の作成や地域クラブ等の募集案内のとりまとめを実施し、児童生徒、保護者等に情報提供を行った。また、市職員と連携し、市ホームページへの情報公開も実施した。

今後の課題と対応方針

長井市は、1つの部活動を1つの地域クラブ等に展開する方法は採用せず、休日の活動は中学生の主体性に任せて、同じ種目であっても中学生の活動を実施する地域クラブ等を自由に選択して参加できることとしている。生徒の自由度は高まる一方で、学校が把握する必要がある地域クラブ等の数が増え、顧問の負担増につながる懸念があるため、ICTの活用を含めて情報共有方法の検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

・健康スポーツ課及び長井市スポーツ協会と連携しながら、指導者講習・研修会及び情報交換会等への参加を呼びかけ、指導者の質の保証とともに、指導者数の確保につなげた。

取組の成果

- ・令和6年度の実証事業に基づき地域スポーツクラブ活動を実施した10団体の指導者数は、1団体あたり4.8名（計48名）である。参加生徒数は201名であることから、生徒数約4名に1名の指導者数となった。部活動では10名前後の生徒に対して顧問が1名という体制が多いことから、部活動と比較して地域クラブ等では一定程度指導者の確保は進んでいる。
- ・健康スポーツ課及び市スポーツ協会との連携により、山形県等が主催する「地域クラブ等指導者研修会」「スポーツ少年団指導者研修会」に多くの団体が参加することができた。（10団体）
- ・市スポーツ少年団本部の協力・呼びかけにより、10団体の関係者5名がJSPOスタートコーチ資格を取得した。（バレー、柔道、ソフトテニス）

県地域クラブ等指導者研究会 参加団体

10/6 山形ビッグウイング
長井弓道会
中学校部活動指導員
長井市教育委員会

10/20 長井市置賜生涯学習プラザ
長井弓道会
長井市中央柔道スポーツ少年団
長井水泳連盟
長井ジュニアバドミントンスポーツ少年団
長井バレーボールスポーツ少年団
長井レッドウイングス(リフトボール)
やくわクラブ(卓球)
FCバレンティア
長井市スポーツ協会

11/23 山形ビッグウイング
Fam ties(ダンス)

研修の内容

プログラム(日程)

時間	内容
9:40~10:00	受付
10:00~10:30	説明 指導者研修会開催趣旨について 山形県スポーツ協会 山形県における部活動改革について 山形県教育委員会
10:30~11:15	研修1「スポーツにおけるハラスメント防止について」 講師：遠藤 啓一氏（県スポーツ少年団本部長・県スポーツ指導者協議会理事） （会場）①11/3 酒田市公益研修センター ②11/9 新庄市民文化会館 ③11/23 山形ビッグウイング 講師：堀江 昭浩氏（県陸上競技協会副会長・県スポーツ指導者協議会会員） （会場）①10/6 山形ビッグウイング ②10/20 置賜生涯学習プラザ 講師：百瀬 克浩氏（鶴岡地区バレーボール協会会長・県スポーツ指導者協議会会員） （会場）①11/4 出羽庄内国際村
11:30~12:15	研修2「スポーツ活動に係るリスクマネジメント」 講師：堀 吉聡氏（東京海上日動火災保険株式会社 公務第二部 文教公務室課長）
12:15~13:15	昼食休憩
13:15~14:45	研修3「スポーツ栄養マネジメント ～食で育む心と身体～」 講師：山口喜代美氏（ういずグループ代表・県スポーツ指導者協議会理事）
15:00~16:30	研修4【実技】応急手当（AED使用法 心肺蘇生法） 講師：研修会場 所管消防署員
16:30~	研修会場の後片付け後、修了証交付

受講者の声

「日ごろからハラスメント防止等に配慮し指導しているが、子どもを中心に考えることの重要性を再認識できた。今後も子どもたちの心と体を健康にする活動を実践していく。」（クラブ等指導者）

今後の課題と対応方針

・指導者の確保が一定程度進んでいるが、設立して間もない団体などは、指導者資格を有していない者や指導歴が浅い指導者がいることから、今後も継続して研修会への参加等によって指導者の質の向上に努めていくことが必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

・置賜地区内の市町部活動改革担当課と情報共有を行うとともに、他自治体の部活動改革説明会に積極的に参加し、情報交換を行った。

取組の成果

・長井市は、西置賜地区の中心市であり、人口規模が最も大きい。地域クラブ等の団体数も最も多いことから、市外の中学生在が参加している団体もある。そのため、東置賜の自治体を含めて、自治体間の情報共有や意見交換を実施した。

(8/23 南陽市部活動改革説明会への参加、10月飯豊町教育委員会との情報共有、
随時実施 白鷹町教育委員会コーディネーターとの情報交換)

・西置賜は地区中体連として一つの地域であり、今年度も合同チームが複数の種目で生じている。地域クラブ等による中体連参加などにより、部活動参加の生徒が減り、合同チームの結成など地区全体への影響が生まれていくことも想定される。具体的な取組の段階には至らなかったが、担当レベルでの情報共有を進めることで、令和6年度から導入された任意加入制及び令和8年度の休日の部活動廃止に向けて、連携して対応していくための関係づくりをすることができた。

西置賜地区の生徒数の状況

	生徒数	割合
長井市	614	49.0%
小国町	165	13.1%
白鷹町	322	25.7%
飯豊町	153	12.2%
計	1,254	

(長井市教育委員会調べ)

今後の課題と対応方針

・広域での地域クラブ等への参加がより広まってくると、移動手段や大会参加等に関する費用支援の課題が生じてくる。今年度から市の独自事業として、地域クラブ等が中体連の県大会以上に参加する場合は、参加費や交通費等の一部支援を行っている。長井市外の生徒個人に係る費用(宿泊費等)は補助の対象外としているが、交通費に関しては切り分けが困難であり、今後このようなケースが増えていく場合、自治体間での具体的な協議が必要になってくる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

・持続可能な地域スポーツクラブ活動運営とするため、月会費等の参加費用は原則として保護者負担とする。
・そのうえで、保護者負担の軽減のため、学校施設の利用に際しての利用料を減免するほか、実証事業として指導者謝金や消耗品費等の費用の一部を支援した。

地域クラブに係る経費

■ランニングコストの分析

※活動を実施した団体のうち2団体をモデルとして算出。

団体A ●活動回数16回

・指導者謝金（110千円）・会場借料（16千円）・消耗品費（80千円）支出計206千円

団体B ●活動回数28回

・指導者謝金（232千円）・会場借料（38千円）・消耗品費（42千円）支出計312千円

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

団体A

1回あたり参加料250円（月会費2千円）×参加者数11名×16回＝収入計 44千円

収支差し引き ▲90千円 ➡ 90千円÷参加者数11名÷16回≒500円 ➡ 1回当たり500円の参加料の増額が必要。

●この団体が持続的な運営に必要な受益者負担額は、月会費6千円。（1回当たり750円×8回＝6千円、現在会費の約3倍）

団体B

1回あたり参加料375円（月会費3千円）×参加者数20名×28回＝収入計210千円

収支差し引き ▲102千円 ➡ 102千円÷参加者数20名÷28回≒180円 ➡ 1回当たり180円の参加料の増額が必要。

●この団体が持続的な運営に必要な受益者負担額は、月会費約4.5千円。（1当たり555円×8回≒4.5千円、現在会費の約1.5倍）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



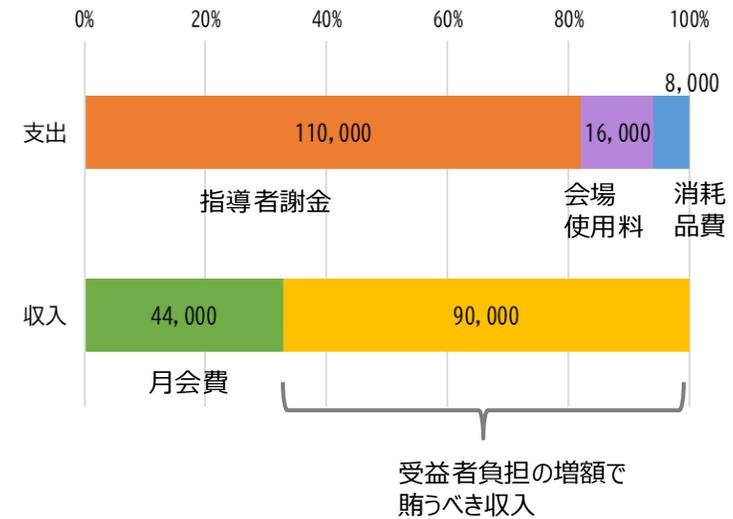
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

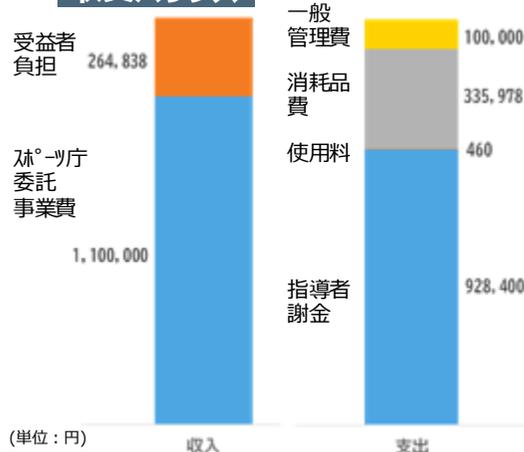
取組の成果

- ・本実証事業において、地域クラブ等の指導者謝金、会場使用料、消耗品費の一部の負担を支援することにより、受益者負担の軽減を実施するとともに、持続可能な受益者負担額のモデル構築を実施した。
- ・2団体の支出では指導者謝金の金額が最も多く、従来から地域展開の一般的な課題として、指導者の確保と同時に指導者謝金の捻出の困難さが指摘されてきたが、その実態を明らかにすることができた。
- ・収入については、実証段階ということもあり、各団体ともに受益者負担額を抑えている傾向にある。しかし、収支差額から試算すると、一回当たり555円から750円程度の増額が必要であり、月会費にすると約1,500円から4,000円程度の増額となる。
- ・種目や活動内容、参加者数でも大きく変動するが、持続可能な受益者負担額の一つの目安としては、月会費は4,500円から6,000円程度になることが分かった。

※団体Aの試算による



収支バランス



- ・本実証事業に関するクラブ活動費の収入は、80.6%をスポーツ庁委託事業費が占める。
- ・持続可能な事業実施のためには、適切な受益者負担の設定と負担軽減に向けた支援策の構築が必要である。

今後の課題と対応方針

- ・持続可能な地域スポーツクラブ活動運営とするため、月会費等の参加費用は原則として保護者負担とする必要があるが、部活動の費用負担に加えて、休日の地域クラブ等への参加費用が過大な負担になることは避ける必要がある。
- ・今回モデルとして試算を行った団体は月8回の活動を実施している団体であ

るが、生徒や保護者の希望によって月4回などの参加も可能とし、参加回数に応じて参加費用が低減されるような会費設定の検討をしなければならぬ。また、参加者が増加すれば一人当たりの参加費用が安価になると考えられることから、市HP等を活用した参加者募集の支援等により、地域クラブ等の運営や保護者負担を支えていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

・学校施設や学校備品等を積極的に活用し、場所や道具等による活動団体や個人への負担を軽減した。

・費用負担の軽減に加えて、移動負担についても学校施設を利用することで軽減できるため、可能な限り学校を活用していくこととした。

取組の成果

・学校施設や公共施設の活用については、庁内で地域クラブ等の利用拡大に関して情報共有を図るとともに、既に設置済だったスマートロック機能を用いて施設の解錠にマイナンバーカードを用いるなど、地域クラブ等の利便性向上を図った。

・使用料負担については、学校施設は地域クラブ等の活動は全て減免措置とし、負担軽減を図った。

・市民体育館及びコミュニティセンターについては、スポーツ少年団に関しては、定期的な施設利用の際は減免対象となっており、施設で活動する際の利用料金はかからず、受益者負担も生じない。一方で、他のクラブ等については減免対象とはならないため、庁内で減免措置の導入について検討を進めたが、他の市民利用者との調整が困難であることなどから、現時点では減免措置の導入には至っていない。

今後の課題と対応方針

・学校施設の活用は図られているものの、備品の活用について一部の部活動では共有できない事例もあった。備品の消耗に対する対応など、学校と地域クラブ等の間でどんな取り決めをしていくかがまだ明確にできておらず、この点について部活動顧問等の不安感が生じていると考えられることから、今後は施設利用や備品利用に関する共通理解が可能となるガイドラインの作成が必要である。

・学校施設の貸し出しについては、教育委員会と健康スポーツ課で対応しているが、毎回手続きのために来庁する必要があるため、他事例等に学びながら、ICT活用による施設貸し出しの仕組みの検討を進めていく必要がある。

・市民体育館及びコミュニティセンターの減免措置については、施設の取り合いにならないような配慮をしながら一定の負担軽減を図る仕組みの検討を進めていく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

長井市では、部活動の地域展開にあたり、子どもをまん中にしたスポーツ文化芸術活動の環境整備に取り組むこととしている。この点において、部活動の休日の活動を1つの地域クラブ等に地域展開する形ではなく、同じ部活動に所属する生徒であっても、一人ひとりの生徒の判断によって異なる地域クラブ等に参加することができる仕組みを採用している。

令和6年度の実証事業において、このような本市の実情に応じた多様な地域クラブ活動が展開できた。特に、中体連参加を目指すクラブと中学校の部活を支えることを明確に位置付けたクラブが新たに活動を開始したことは、今後の地域クラブ等の大きな2つの方向性を代表する動きといえる。

また、持続可能な地域クラブ等の活動の収支構造モデルも検証することができた。今後、受益者負担のモデルとして地域全体で共有していく。

地域展開に向けた課題は山積しているが、本実証事業を通して着実に前進している。関係機関、団体等の協力を得ながら、子どもをまん中に置いて部活動の地域展開を進めていきたい。

●成果の評価

- ・実証事業を通して、新たに中学生の活動を開始する団体が現れたことは、子どもたちに多様な選択肢を提供するという観点から良い結果であった。まだ活動団体が不在の種目もあるが、地域の規模から全ての種目において団体や指導者を確保することは困難であるため、関係者との協議を踏まえて対応策を講じていく必要がある。
- ・活動の活性化のためには、生徒や保護者の負担軽減が不可欠である。この点については本実証事業で検証した受益者負担のモデルが指標となり、今後の市による支援施策の検討に寄与するものである。

●今後に向けて

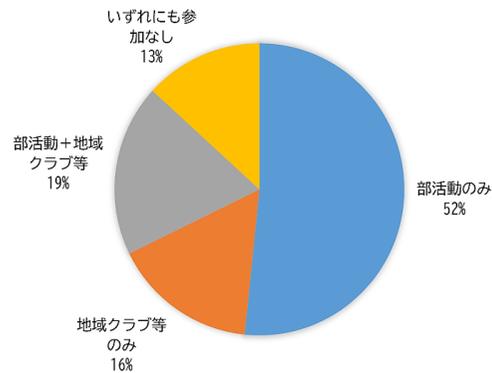
- ・実証事業の取り組みを進める中で、学校、生徒、保護者、地域クラブ等の関係者の地域展開への理解が進んでいる。一方で、庁内や公共施設の対応に課題が残るため、市としての部活動の地域展開のビジョンをより明確にしていき、共通理解を広げる必要がある。
- ・受益者負担の軽減措置の更なる検討など、既に中学生の活動を開始した地域クラブ等の持続可能な運営を引き続き支援していくとともに、まだ活動する団体が不在の種目に関しては競技団体やスポーツ協会、総合型地域スポーツクラブとの協力により、活動開始への支援や活動団体不在の種目に参加する生徒を対象とした基礎体力づくり等の機会創出も検討を進め、生徒の心身の健康に寄与する部活動及び地域クラブ等の活動としていく。

2.実証内容と成果②

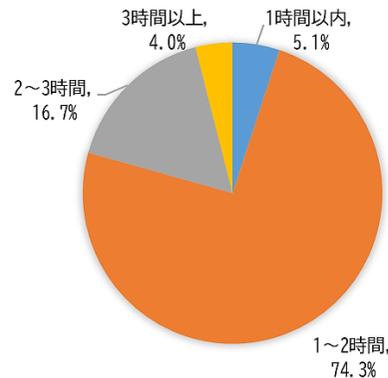
アンケート結果・参加者の声

● アンケート結果（回答者 中学生）

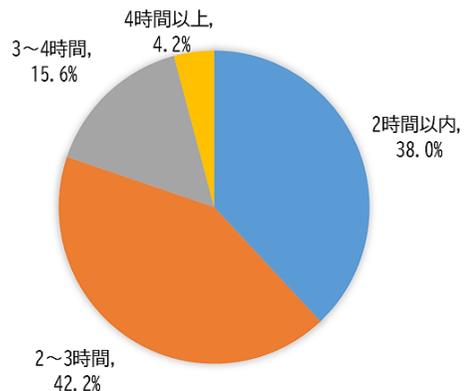
Q.部活動や地域クラブ等への参加状況を教えてください



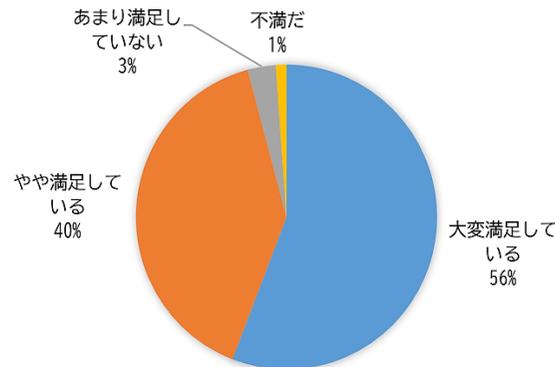
Q.平日の部活動の活動時間数を教えてください



Q.休日の地域クラブ等の活動時間数を教えてください



Q.学校外での活動に関する満足度を教えてください



● 参加者の声

中学1年生

部活動と地域クラブ等の両方に参加しています。いろいろな指導者に教えてもらえるので、両方に参加できて良かったなと感じています。

中学3年生

中体連大会が終わって部活動に行かなくなっても、土日に地域クラブ等に参加できるようになったので練習が続けられてうれしいです。高校でも頑張りたいです。

指導者

休日の部活がなくなっても練習する場所を中学生に提供していきたいという思いで活動を始めた。部員が減っても部活で頑張りたいという生徒を支えていきたい。

指導者

生徒達が楽しく活動できるように心がけている。部活でも地域クラブ等でも、生徒が自分がやりたい活動を楽しんでできる環境をこれからも整えていきたい。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



休日の地域クラブ等による活動の様子（卓球）



休日の地域クラブ等における指導の様子（卓球）



地域クラブ等による活動を踏まえたイベント出演時の様子（ダンス）



休日の地域クラブ等による活動の様子（サッカー）

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

検討開始、
関係者との
情報共有

各団体指導者
にヒアリング

令和5年

学校現場との
調整、地域クラ
ブ等の活動調
整

生徒、保護者へ
の説明、
地域クラブ等の
実証事業実施

令和6年

関係者との情報
共有、
地域クラブ等の
実証事業実施

令和7年

地域クラブ等の
休日の活動拡大

- スポーツ関係団体代表者
- R4.8に「部活動地域移行を考える会」を実施
- 国や県の部活動改革について方向性を確認するために指針や通知文書について共有を図った。
- 中学校部活動とこれまでのスポーツ少年団やスポーツクラブ等との関わりや、中体連主催大会の今後はどうなるのか等の質問や意見、「教員の働き方改革のために、指導を投げ出すのか」等の厳しい意見が相次いだ。教員の働き方改革だけでなく、児童生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築も重要であることを、今後も丁寧に説明し、共有していく必要がある。

- 受け皿団体
- R4.8～R5.3
- 地域のスポーツ関係団体において、中学生を対象として活動をする意向があるかヒアリングを実施。
- 小学生対象に活動しているスポーツ少年団が中学生を対象に活動を広げて行うことに、前向きに検討している団が複数あり、地域スポーツクラブ活動が可能な団体は準備を進めた。中学校についても、経緯について説明。生徒の負担等を考慮し、部活動と連携を図っていくことを確認した。

- 児童生徒、保護者、市民
- R5.5～12
- 部活動改革の周知文書を配布。
- 推進委員会や検討委員会を通して、児童生徒自身が自分はどうなるのかということを具体的にイメージすることができるように周知する必要があるとの意見を受け、作成した。今後の休日の過ごし方について、いくつかのパターンを紹介し、具体的なイメージをもってもらうことをねらいとし、配付した。
- 中学生の活動を実施する地域クラブの一覧表を作成し、R6.3に市内中学1～2年生と小学6年生に配付をした。

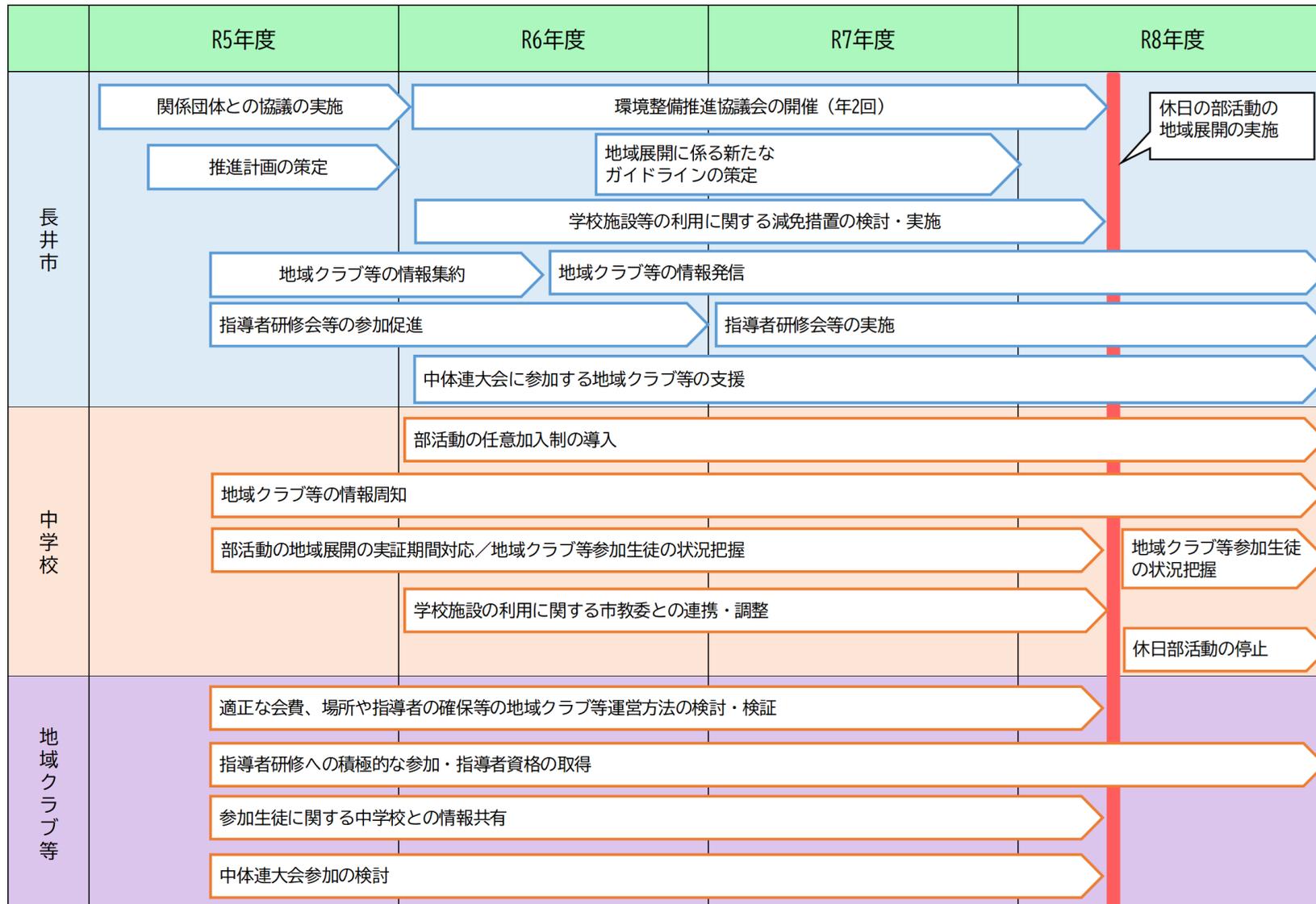
- R6入学予定者及び保護者
- R6.1
- 入学予定者説明会において、R6以降の部活動について説明を実施。
- R6より中学校部活動が任意加入制になることにより、入部が任意になることと、地域クラブによる活動について説明を実施。不明な点については教育委員会を窓口として相談を受け付けた。保護者や地域の方からの問い合わせについては、その都度対応したが、中体連への参加への心配の声が多く寄せられた。県中体連の動向も踏まえて、クラブや保護者に継続的な情報提供が必要となる。

- スポーツ協会、首長部局、関係団体代表者
- R6.5～7
- R6以降の実証事業の対応及び地域クラブへの支援体制等の協議。
- 地域クラブ等の活動に関わる主体の間で現状と課題の共有、今後の支援体制等について協議を行った。

また、R7に向けて新中学1年生向けに早めに地域クラブ等の情報を提供するとともに、随時更新された情報にアクセス可能とするために市ホームページへの情報を掲載することとした。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県 天童市

自治体名：山形県天童市

担当課名：天童市教育委員会学校教育課

電話番号：023-654-1111（内線823）

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	113.02km ²
人口	60,346人 (R6.5.1)
公立中学校数	4校
公立中学校生徒数	1,571人 (R6.5.1)
部活動数	33部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

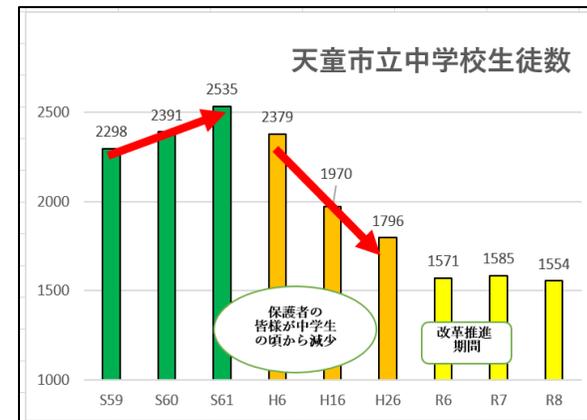
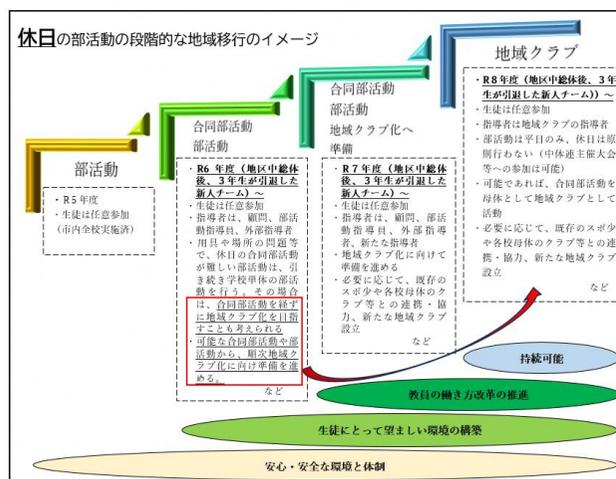
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市は、山形県のほぼ中央に位置し、全国規模の大会が可能な、山形県総合運動公園が立地している。また、モンテディオ山形をはじめとした4つのプロスポーツチームのホームタウンとなっており、スポーツ環境は県内でも恵まれている。

本市では国や県のガイドライン等をもとに、下記のように、地域クラブ化に向けた合同部活動を1つの手段として、部活動地域移行を推進している。今後の見通しとして、令和8年度6月開催の地区中体連総合体育大会後、3年生が引退した新人チームから、休日の部活動は原則行わず、地域クラブへ移行していく計画である。

本市も全国と同じ状況で、今後生徒数が大幅に減少し、合同で活動しなくてはならない状況が推測される。そこで、各中学校の部活動指導員や外部指導者、また協会や連盟の有資格指導者と連携を図りながら、指導ビジョンを共有し、規約、活動計画、組織図、会費規程等を整えて活動できるよう、環境整備に努めている。どの競技においても、生徒にとって望ましい環境づくりを、必要感に応じて推進していくスタンスである。

課題は、有資格指導者の確保と持続可能な部活動地域移行への理解と協力を市民、関係各位とともに推進していくことである。

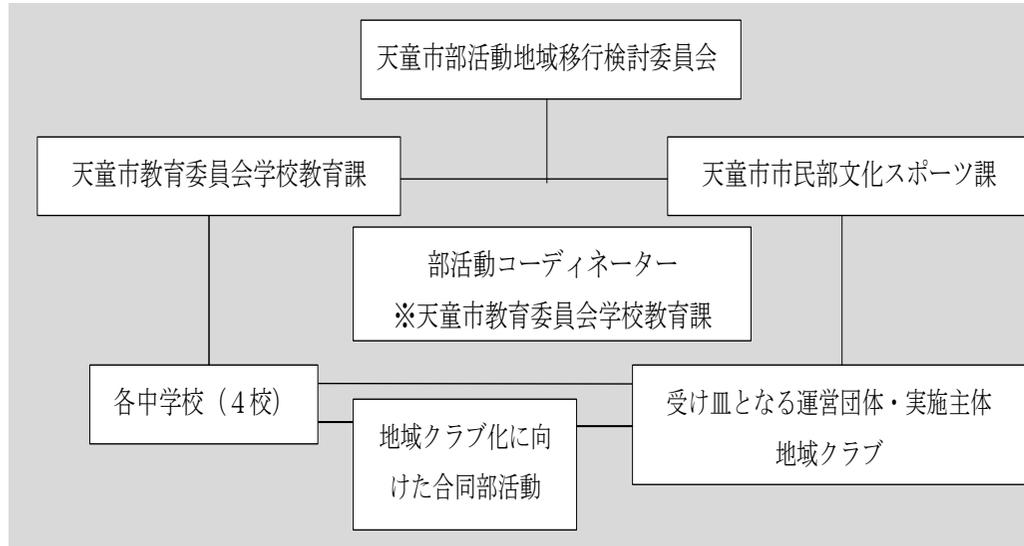


※出典：山形県統計年鑑、本市学校基本調査

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課・・・部活動改革の主幹、中学校との調整・連携、外部指導者に係る業務
- 市スポーツ協会、市スポーツ少年団本部、市芸術文化協会との連携
- 県中学校体育連盟主催大会の参加に係る地域クラブ確認

◎首長部局

- ・文化スポーツ課・・・市中体連強化費予算措置
- 中学生の施設利用に伴う減免措置

年間の事業スケジュール

令和6年 4月	部活動地域移行基本方針通知 市内4中学校のPTA総会で保護者へ部活動地域移行の趣旨説明
令和6年 7月	市スポーツ協会会長会で趣旨説明
令和6年 8月	合同部活動説明会（市中体連） 地域クラブ：東村山ファーストエンジェルス（ソフトボール）立ち上げ
令和6年 9月	部活動地域移行に係る調査実施 〈顧問へ中学校1・2年生の所属調査〉 市スポーツ少年団本部委員会で趣旨説明
令和6年10月	合同部活動外部指導者説明会開催 部活動地域移行検討委員会開催 9月実施のアンケート公表
令和6年12月	部活動地域移行に係るアンケート調査 〈市立小学校6年児童と保護者〉 外部指導者へ指導に係るアンケート調査
令和7年 2月	12月実施のアンケート公表 ※市文化スポーツ課と協議〈5・8・9・11・1・2月〉

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1（2）
	東村山ファーストエンジェルス（女子ソフトボール）		
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
東村山ファーストエンジェルス	天童市	ソフトボール女子	月4回	9:00～12:00	小6年：1人 1年：1人 2年：7人	令和6年8月～令和7年1月	天童市内中学校グラウンド等	指導者2人	2人	月会費 1,500円	中体連以外の大会 地域クラブで出場

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 団員募集に係る体験会は、随時開催している。

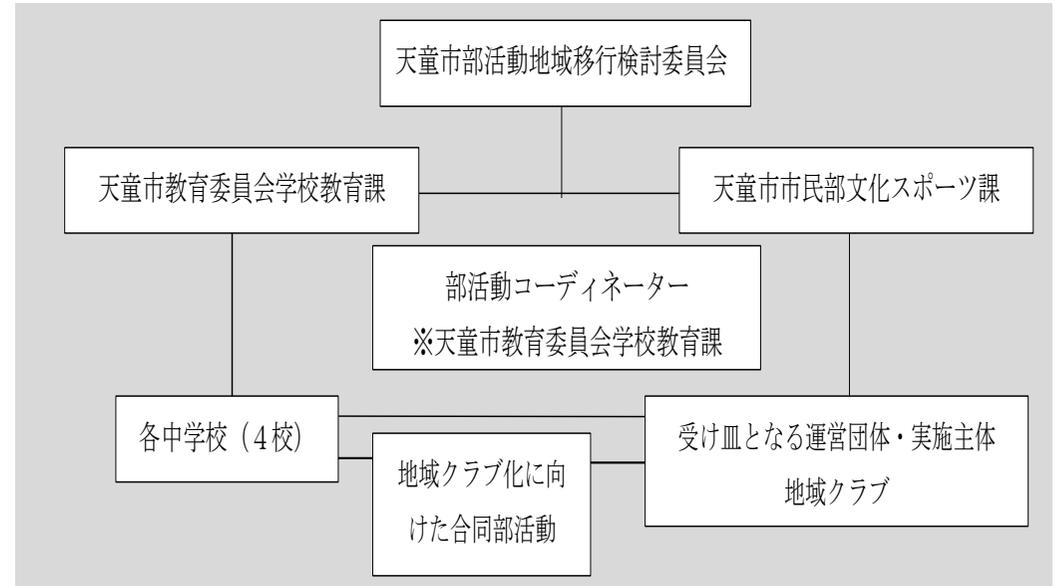
2.実証内容と成果

主な取組例

●天童市立中学校部活動地域移行 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトボール
運営団体名	天童市
期間と日数	全競技：4月1日～3月31日 休日 月4回程度 平日 週1～2回程度
指導者の主な属性	中学校顧問 部活動指導員 市スポーツ協会・連盟の外部指導者他
活動場所	天童市内中学校のグラウンド、体育館、 天童市スポーツセンター
・主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（月額）	1,500円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 天童市部活動地域移行検討委員会・・・有識者による検討・・・生徒にとって望ましい環境づくり
＜市スポーツ協会・スポーツ少年団本部・市芸術文化協会・教育長・教育次長・市立各中学校長・PTA会長・市PTA連合会＞
- 天童市教育委員会学校教育課・・・部活動改革の主幹、中学校との調整・連携、外部指導者に係る業務、市スポーツ協会、市スポーツ少年団本部、市芸術文化協会との連携、県中学校体育連盟主催大会の参加に係る地域クラブ確認＜担当指導主事・部活動コーディネーター＞
- 天童市市民部文化スポーツ課・・・市中体連強化費予算措・中学生の施設利用に伴う減免措置
- ソフトボールクラブ運営者・・・指導ビジョン、規約、生徒への指導を通じたクラブ運営
＜指導者2名、運営スタッフ2名＞

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

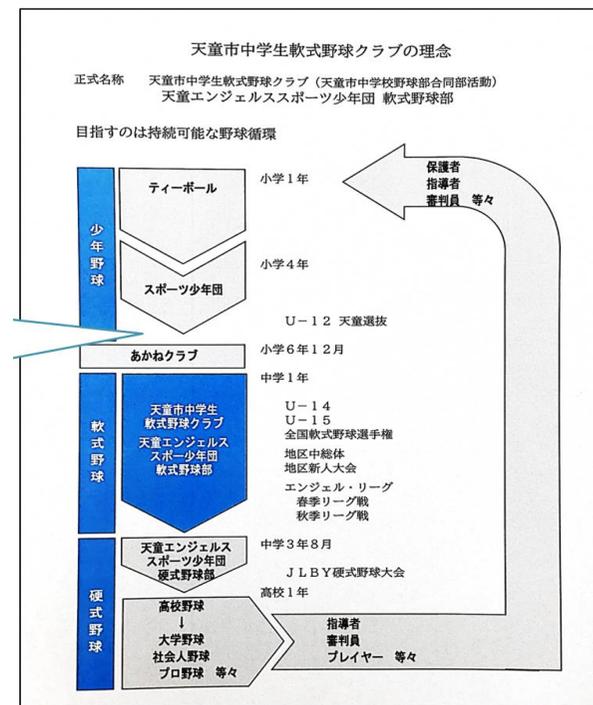
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

1. 本市の部活動地域移行基本方針を各中学校長へ通知
2. 部活動地域移行の趣旨説明
 - ・4中学校の保護者
 - ・市スポーツ協会
 - ・市スポ少年団本部委員会

取組の成果

1. 年度当初、市内4中学校長宛に本市の部活動地域移行基本方針を教育長名で通知。その後、中学校長会議等で方針内容と今年度の具体的な取り組みについて説明する場を適宜設け、特に地域クラブ化に向けた合同部活動要項と外部指導者要項について周知を図り、同一歩調で進めた。
2. 部活動地域移行の趣旨と具体的な取り組みを市内4中学校PTA総会時に保護者へ、また市スポーツ協会へ随時伝達し、周知を図る。特に、部活動の地域移行の先進事例（令和3年度県教委合同部活動モデル地域指定）である『天童エンジェルス（軟式野球部）』は、部員数の減少からクラブの理念と指導ビジョンを共有し、持続可能な野球活動ができる環境づくりを推進している事例であり、部活動地域移行の主旨説明を通して、他競技への波及効果を生んでいる。



※出典：天童エンジェルスの実践 オール天童で野球環境づくりを始める

コーディネーターの具体的な動きの実績

・部活動コーディネーターは、市スポーツ協会の会長であるため、加盟の各連盟や協会への連絡・調整を円滑に行うことができた。また、スポーツ少年団本部とも協議や連携をとりやすい立場にあるため、主旨説明に関しては、それぞれの団体へ適宜、主旨説明ができた。

今後の課題と対応方針

・部活動地域移行の趣旨説明を踏まえ、年度の後半からは活動可能な部活動から合同部活動に取り組んでいる。各競技のこれまでの歩みを土台に、生徒が満足する活動になるような、よりよい環境を整えていくことが課題であり、指導ビジョンや活動内容について顧問や協会・連盟、外部指導者との合意形成を丁寧に図るパイプ役として機能するよう努めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

3. 合同部活動

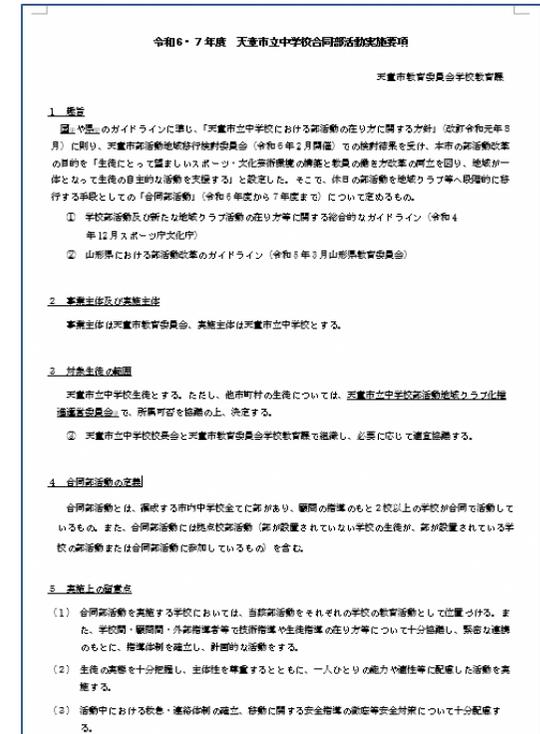
・要項の制定

・合同部活動説明会
(令和6年8月開催)

取組の成果

・本市の部活動地域移行の趣旨を受けて、合同部活動要項を定めた。要項の理解を図るため、市中学校校長会、市スポーツ協会加盟団体、市スポーツ少年団本部等へ機会をとらえて周知に努めた。

・特に、本市中学校体育連盟へは合同部活動の具体的な実践につなげるため、令和6年8月に説明会を開催した。その説明会には、市内4中学区の運動部の顧問が出席し、趣旨への理解を通して、具体的な活動を実施するための活動場所の割り振り、参加生徒名簿作成、緊急時の連絡体制等、の共通理解を図った。その後、年度内に、試行的ではあるが合同部活動を計画し、実施する運動部ができた。(陸上競技・サッカー・ソフトテニス・剣道等)



※出典：本市合同部活動要項

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・合同部活動要項を作成し、(本市の部活動地域移行の趣旨を踏まえ)合同部活動の定義、実施上の留意点、保護者への周知、連絡体制、安全管理等を定め、市中学校校長会、市スポーツ協会加盟団体、市スポーツ少年団本部等へ周知を図った。
- ・合同部活動の活動状況や情報交換等を随時行った。

今後の課題と対応方針

- ・合同部活動が生徒数減少の見込みを捉え、生徒が満足するよりよい環境であることへの理解を、顧問と外部指導者で共有していくことが根幹である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

4. 外部指導者

・要項の制定

・合同部活動
 外部指導者説明会
 (令和6年10月開催)

取組の成果

・本市の部活動地域移行の趣旨を受けて、合同部活動外部指導者要項を定めた。要項の理解を図るため、市中学校校長会（市中体連）、市スポーツ協会加盟団体、市スポーツ少年団本部等へ機会をとらえて周知に努めた。

・本市の部活動地域移行の趣旨及び外部指導者要項の周知を図った。特に、運動部の現状、さらに今後合同部活動を経て、令和8年の地区中学校総合体育大会から休日は地域クラブでの活動をめざしている方向性、さらに本市の部活動ガイドライン遵守の確認、並びに資格取得等の説明を行った。

様式第1号(第2条関係)
令和6年度 天童市立中学校合同部活動 外部指導者 推薦書

ふりがな	生年	年齢	性別
氏名	昭和・平成 年 月 日生	歳	男・女
現任所属 連絡先	自宅電話 () 携帯電話		
推薦 理由 等	部		
推薦 理由 等	<input type="checkbox"/> 部活動のねらい、活動計画に即り、生徒一人一人の育ちや成長等を適切に支援、指導することができる人材である。 <input type="checkbox"/> 人間性・社会性ともに適切であり、生徒一人一人の特性等の理解に努め、あいさつやマナー等、心の教育も重視する人材である。 <input type="checkbox"/> 指導する種目・分野について、経験や関係する資格等を有し、その指導支援等が適切な人材である。(令後、日本スポーツ協会公認指導者資格等を取得する予定である → 令後 年度内) <input type="checkbox"/> 被推薦者は、指導にあたり、試合に勝つことや強化することのみを重視した過度な練習、体罰、言葉の暴力、ハラスメント等を絶対に行わない人物である。また、個人情報を漏洩しない人物である。 <input type="checkbox"/> 被推薦者は、学校教育・学校と地域との関係・保護者への適切な対応等の在り方について理解があり、学校や顧問等へ報告・連絡・相談等に努める人物である。		

天童市教育委員会 様
 上記の者を天童市立中学校部活動外部指導者として推薦いたしますので、認定くださいますようお願いいたします。
 令和6年 月 日
 天童市立 中学校 校長 印

上記の者を、天童市立中学校部活動外部指導者として認定します。
 令和6年 月 日
 天童市教育委員会 印

※出典：市合同部活動外部指導者推薦書

コーディネーターの具体的な動きの実績

・合同部活動外部指導者要項を作成し、外部指導者の要件、認定手続き、指導の留意点等を定め、市中学校校長会、市スポーツ協会加盟団体、市スポーツ少年団本部等へ周知を図った。

今後の課題と対応方針

・合同部活動の実施に向け、顧問と外部指導者、保護者等へ主旨の理解と指導ビジョンや指導計画の共有等を図っていく協議の場を、複数回設定していく連絡調整を今後も行い、必要な援助をしていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における国費については申請せず、受益者負担を原則にした検証を行った。会費から、指導者謝金と消耗品費、一部保険料を支払っている。

地域クラブに係る経費

■受益者負担の分析

- ・会費（74.6千円）
…一人当たり月1.5千円×9人×6か月
（8月分のみ1.5千円×1人、0.7千円×8人）

■ランニングコストの分析

- 会費より
- ・指導者謝金（30千円）
…一人当たり月5千円×1人×6か月
- ・消耗品費（43.8千円）
- ・保険料（0.8千円）

今後の課題と対応方針

○持続的に活動していくことを前提とした、地域クラブの運営の仕組みづくりは大きな課題である。今年度は、適切な活動を通して、少しでも低廉な受益者負担を保護者へ理解と協力をいただいて、運営することができた。部員の増加が見込めれば、会費の減額も検討することが可能だが、一定数の部員がいなければ賄えないことも今後、想定される。

○活動場所については、現在中学校のグラウンドを主に使用している為、大きな支出はない。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 1 関係者との連絡調整・指導助言の体制や運営団体・実施主体の整備について
 - ・部活動地域移行の概要や地域移行型クラブの新設について、保護者へは市内全中学校のPTA総会において説明を行った。また、市中体連とも連携を図り、部活動の実態に応じ、地域クラブ化に向けた合同部活動の試行について協議し、4競技（陸上・サッカー・ソフトテニス・剣道）で開催することができた。
 - ・市スポーツ協会会長会や市スポーツ少年団本部役員と部活動地域移行の概要を説明した。生徒が主体となった環境づくりと指導者の確保が話題となった。
- 2 指導者の質の保障・量の確保について
 - ・合同部活動要項とその活動に携わる指導者要項を策定し、指導者の質の保障に努めた。合同部活動担当の中学校長から人物についての推薦をもとに、市で認定するシステムを構築することができた。
 - ・量の確保については、指導者の資格を有する手立てを市スポーツ協会育成強化事業の指導者養成費（新規の指導者資格取得に係る経費の1/2補助）と連携して、今後も進めていくことを確認できた。

●成果の評価

- 1 関係者との連絡調整・指導助言の体制や運営団体・実施主体の整備について
 - ・生徒や保護者、市スポーツ協会や市スポーツ少年団本部との連絡調整では、概要の周知を図ることができた。
 - ・ソフトボールは指導者も生徒も少人数での組織である良さを生かし、緊密に連携をとりながらクラブ運営ができた。天童エンジェルス（軟式野球）をモデルとして、持続可能なクラブ運営をめざす見通しを、指導者間で共有することができた。
 - ・試行的に合同部活動を行った競技では、実際に生徒や顧問・指導者の声として、競技の専門性に触れる楽しさを味わうことができ、また効率の良い運営をすることができることを肌で感じたという意見が聞かれた。地域クラブ化に向けた貴重な声である。
- 2 指導者の質の保障・量の確保について
 - ・指導者アンケートにより、スポーツ指導者の資格を取得している（R7取得予定含む）指導者は60.9%であった。
 - ・ソフトボールの指導者は100%の取得である。

●今後に向けて

- 1 関係者との連絡調整、運営団体等の整備について
 - ・令和7年度から、地域移行型クラブへのスムーズな移行を加速させるため、各競技ごとの実態に応じ、生徒にとってよりよい活動になるように、丁寧な指導助言をしていく。
- 2 指導者の質の保障・量の確保について
 - ・指導者の質の向上のため、市スポーツ協会と連携し、指導者研修会を実施する。
 - ・市スポーツ協会の育成強化事業を活用し、指導者の有資格の援助を進めたい。

2.実証内容と成果②

アンケート広報資料

- ・アンケート実施の年間計画に則り、下記のように実施した。
- 1 部活動所属等アンケート（顧問へ）
対象：中学校1.2年生（1,032人）
- 2 ソフトボール指導者（2人）運営スタッフ（2名）部員（9人）
- 3 合同部活動外部指導者（地域クラブ指導者含む）（46人）アンケート
- 4 市内小学校5・6年児童（900人）とその保護者

教 学 号 外
令和6年9月18日

天童市立各中学校長 様

天童市教育委員会教育長

部活動地域移行に係る調査について（依頼）

本市部活動地域移行の推進にご理解とご協力をいただき、感謝しております。
このことにつきまして、今後の部活動地域移行の推進を加速させる資料として活用させていただきますたく、下記の調査にご協力くださいますよう、お願いいたします。

記

- 1 目 的 生徒の部活動所属について、その実態の把握のため
・部活動に所属している生徒が、学校以外（例：スポーツ少年団や保護者
会で組織しているクラブ、または市内外の外部団体等）に所属してい
る人数の調査
- 2 回答内容 別紙参照
- 3 回 答 者 各部活動顧問
- 4 調査方法 顧問が生徒に聞き取り、その人数を記入願います。
- 5 提出期限 令和6年10月3日（木）
※下記担当宛てに、庁内メールにて提出願います。
※アンケート調査の人数は、**各部活動ごとに入力**ください。【集計1生
徒数】（黄色のシート）へ集約されます。

担当：学校教育課指導係
部活動コーディネーター 海老洋一
TEL：023-654-1111（内823）
FAX：023-654-3355
E-mail：gakkyo@tendo.city.lg.jp

【部活動所属等アンケート依頼（顧問へ）】

天童市立中学校 地域クラブ ソフトボール部員へのアンケート調査

R6.12月

天童市立中学校地域クラブ ソフトボール部員のみなさんへ。

みなさんは、平日には学校の部活動、休日には地域クラブでソフトボールの活動をがんばっていますね。
今、天童市では休日の部活動を、みなさんが活動している地域クラブを他の種目でも設立できないかをめざし
て、いろいろな取組をしています。そこで今後、天童市の地域クラブをどのようなクラブにしたいのか、
また、どんな活動をめざすとよりよい地域クラブになるのか、考えるヒントをみなさんから聞きたく、アンケートを
実施します。

みなさんが休日に地域クラブで活動している思いや願い、また日頃から考えていることを教えてください。

みなさんの名前は出しませんので、率直な気持ちを教えてください。よろしく願います。

天童市教育委員会学校教育課

【ソフトボール部員へのアンケート依頼】

天童市立中学校部活動 外部指導者のみなさまへ 指導と運営、資格等に関するアンケート調査

令和6年12月6日

天童市立中学校部活動 外部指導者のみなさまへ。

休日の部活動（学校単独・合同部活動・拠点校部活動）のご指導に感謝申し上げます。

本市では、令和8年度からの休日に行う部活動の新しい仕組みとして地域クラブ化をめざして、合同部活動
要項や外部指導者要項を定め、取組を推進しています。

そこで現時点まで、地域クラブ化をめざしてご指導くださっている外部指導者の皆様へアンケートを実施し、今
後、本市の地域クラブの設立に向けて、実態に応じながら、どのような運営や活動をめざすと生徒にとって満足
できる地域クラブになるのか、推進していくヒントをいただきたいと考えています。

ご理解とご協力をよろしく願います。

お願い：当てはまる文言に 印や、に \square を 記入し、必要に応じ、自由記述をお願いします。

天童市教育委員会学校教育課

【合同部活動外部指導者へのアンケート依頼】

教 学 号 外
令和6年12月10日

天童市内小学校
5・6年生の保護者 様

天童市教育委員会学校教育課

休日の部活動地域移行に関するアンケートへの協力のお願い

日頃より、本市の学校教育の推進に協力をいただき、ありがとうございます。
さて、本市では国県の方針を踏まえ、休日の部活動地域移行の推進をしています。
特に、休日の部活動の地域クラブ化へ向けて、令和7年度はその準備の年度、令和
8年度には準備が整った地域クラブから設立していく年度として、進めています。
そこで、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築を地域と一体とな
ってさらに推進する資料作成のため、来年度と再来年度に中学校へ進学する児童と
その保護者へ、意向調査を実施します。

つきましては、ご理解とご協力をよろしく願います。なお、児童へは各
小学校にて回答していただいていることを申し添えます。

記

- 1 実施する調査 休日の部活動地域移行に関する児童の保護者の意向につ
いて。
- 2 対 象 市内小学5・6年生の保護者。
- 3 回答方法及び期限 お子さんの進学予定の中学校区 QR コードを読み取り、
令和7年1月10日（金）までに回答願います。

保護者用 お子さんの進学予定の中学校区の QR コードから回答してください



天童一中学区保護者



天童二中学区保護者



天童三中学区保護者



天童四中学区保護者

- 4 そ の 他 1家庭1回答をお願いします。
（双子や年子のいるご家庭は1回答）

担 当：学校教育課
部活動コーディネーター 海老 洋一
TEL 023(654)1111<内>822 FAX 023(654)3355

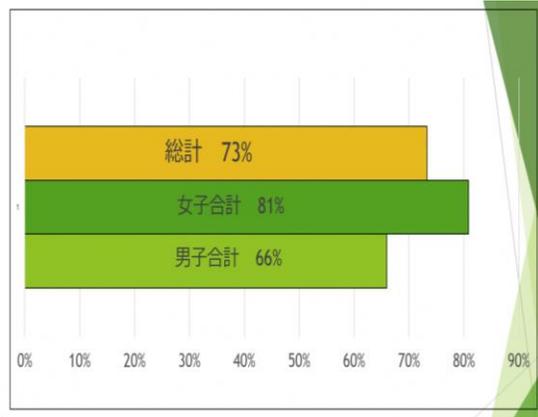
【小学校5・6年児童・保護者へのアンケート依頼チラシ】

出典：天童市教育委員会学校教育課

アンケート結果・参加者の声

●部活動地域移行に係る調査結果 (対象：顧問へ中学校1・2年生の所属調査)

Q1.あなたは、部活動に所属していますか？



Q2.あなたはスポーツ少年団にも所属して活動していますか？



●アンケート分析

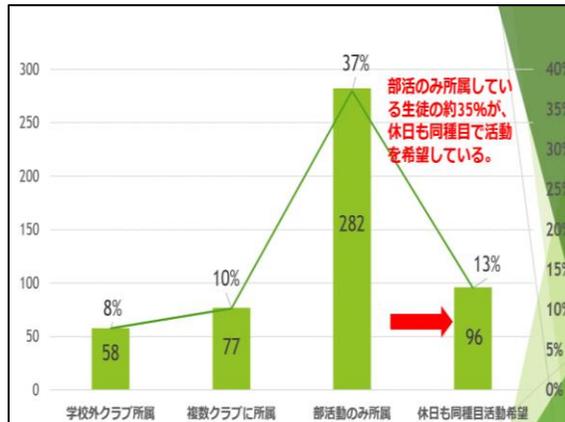
Q1.部活動の所属率について

- ・総計は73%で前年比-3%。微減だが、生徒数も減少していくことから、今後も所属率も低下していく可能性があるかと推察している。
- ・女子の所属率の方が男子よりも高い。

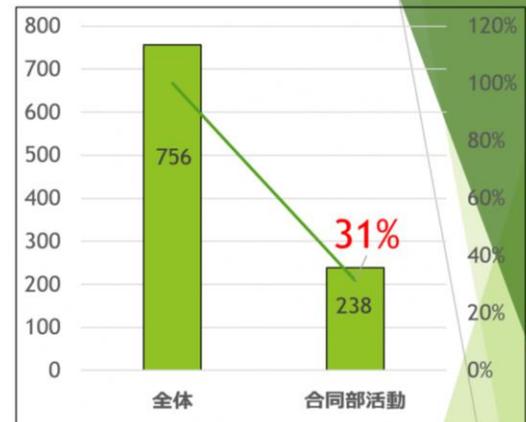
Q2.スポーツ少年団の加入について

- ・部活動に所属している生徒の約25%がスポーツ少年団にも加入して活動している。
- ・特に、ソフトテニス11団、バレー4団、バスケットボール2団があり、加入率が高い。延べ52名の指導者がいる。

Q3.あなたは学校外クラブに所属していますか？部活動のみの所属ですか？



Q4.あなたは、複数校の合同部活動に参加していますか？



Q3.学校外クラブの所属、部活動のみの所属について

- ・学校外クラブ（スイミングや他市町クラブ）に所属しているのは8%で、複数クラブの所属は10%であった。
- ・部活動のみで活動している生徒は37%で、その中で休日も活動を希望している生徒は13%であった。

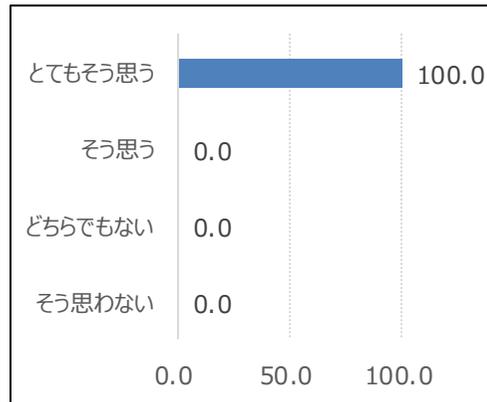
Q4.合同部活動の参加について

- ・部活動に所属している中で、合同部活動（陸上競技、サッカー、ソフトテニス、剣道等）に参加している生徒は31%であった。
 - ・地域移行の1つの手段として、合同部活動を推進したい。
- ※合同部活動と地域クラブを併用して参加している場合あり。

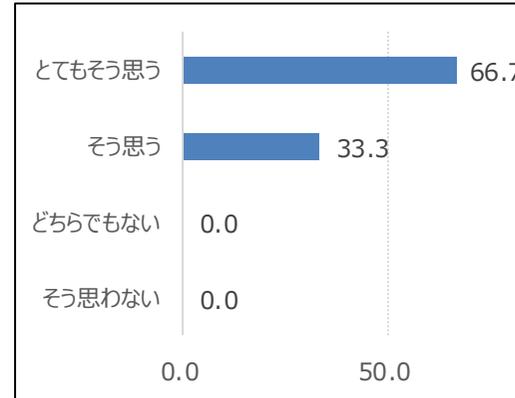
アンケート結果・参加者の声

●ソフトボール部員（9人）のアンケート結果

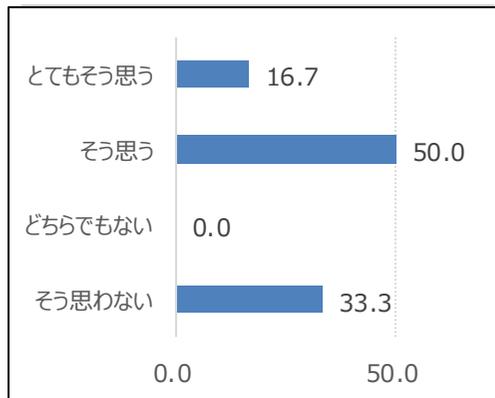
Q1.あなたは、ソフトボールをもっと上手くなって自分を成長させたいと思って活動している。(%)



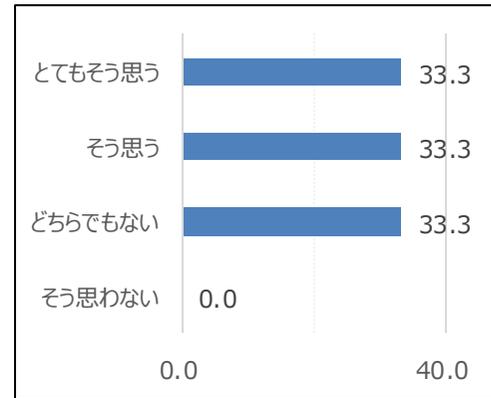
Q2.休日の指導者は、試合に勝っても負けても次の課題を一緒に考えてくれる。(%)



Q3.練習や試合後等で、顧問と休日の指導者は同じ考えで指導してくれている。(%)



Q4.あなたは、ソフトボール競技を卒業してからも続けて活動したいですか？(%)



●ソフトボール部員のアンケートからの分析

Q1.団員の目指している活動について

・回答した団員全員が技能の向上を通して成長したいと願っている。類似のアンケートでも、真剣に活動に取り組みかつ、仲間と助け合い、励まし合って活動している結果が出ている。団員が満足して活動している様子がうかがえる。

Q2.部員の意欲付けについて

・勝敗に関わらず、チームとして試合を通して上手く出来たことや上手く出来なかったことを振り返り、共有し、次の試合に臨んでいく意欲付けは、競技への関心を高め、団員のやる気やよりよい態度に繋がる。（指導者も同様である。）

Q3.指導者の一貫した指導について

・指導者なりの（独自の）指導したい内容の言葉がけが違ってくことは日常的にあると思われる。団員が指導者の指導で迷う場面において、団員自身が納得出来るようチームのコミュニケーションを気軽に図れる環境も大切である。

Q4.団員の競技の継続について

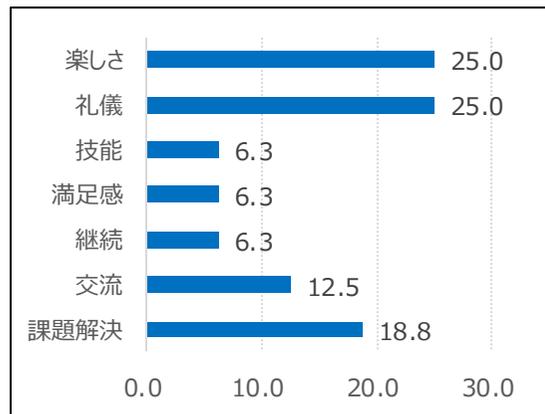
・ソフトボール競技を経験した団員が、今後も持続可能な形で競技を継続していきたいのは、三分の二であった。生涯を通してソフトボールに親しみ、次の世代の団員へ学んだことや経験したことを継承していく資質と能力も育みたい。

2.実証内容と成果③

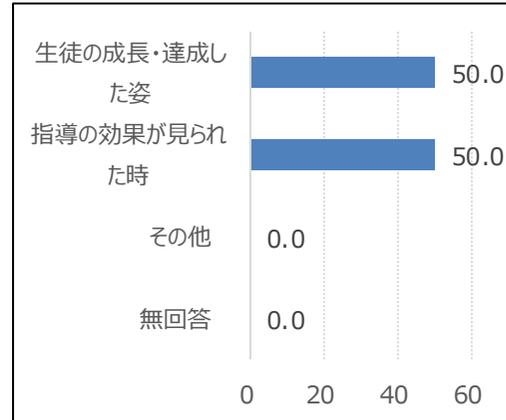
アンケート結果・参加者の声

●ソフトボール指導者（4人）アンケート結果

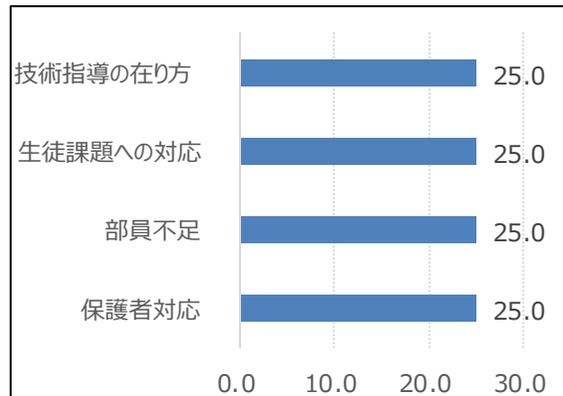
Q1.あなたはどのような活動を目指して活動していますか？（%）



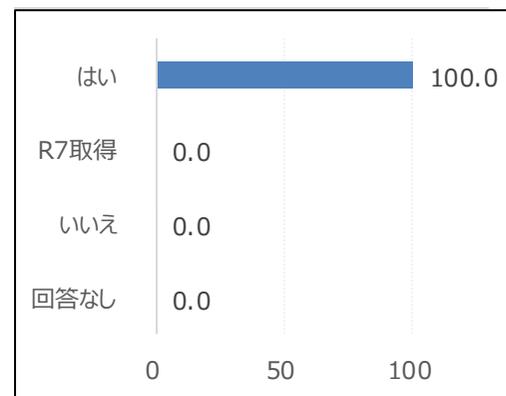
Q2.あなたが指導していて、一番のやりがいを感じていることは何ですか？（%）



Q3.あなたが指導していて、課題に感じていることは何ですか？（%）



Q4.あなたは、JSPO公認スポーツコーチ等の資格を取得していますか？（%）



●ソフトボール指導者の声

Q1.目指している活動について

・「生徒自身が今までできなかったことや悩んでいることが、指導していく中で上手く出来るようになり、課題解決した時に、達成感を感じています。これからも目指していきたい活動です。」

Q2.指導している一番のやりがいについて

・「生徒達が活動の中で、楽しく笑って、成果が出せた時にやりがいを感じています。」
 ・「生徒の成長、笑顔が見られた時です。」

Q3.指導している課題について

・「生徒一人一人の課題を把握し、自信をつけさせる指導のあり方が課題です。」
 ・「少子化の問題で部員数の減少と生徒の技能の低下が心配です。」

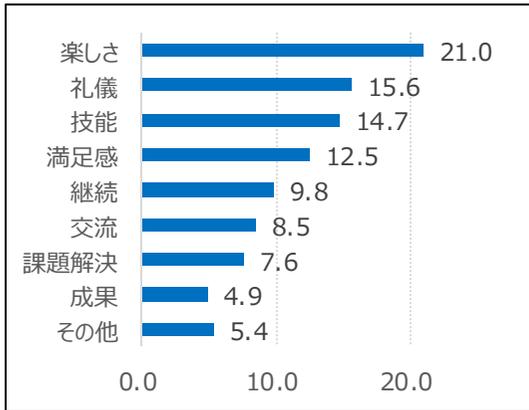
Q4.スポーツコーチ資格等の取得について

・「資格を活かし、今まで以上に、顧問や指導者間でコミュニケーションを密にしていきたいです。」
 ・「今後、若い人材（指導者）を確保すること、資格を持った指導者が指導していることを地域に周知したい。」

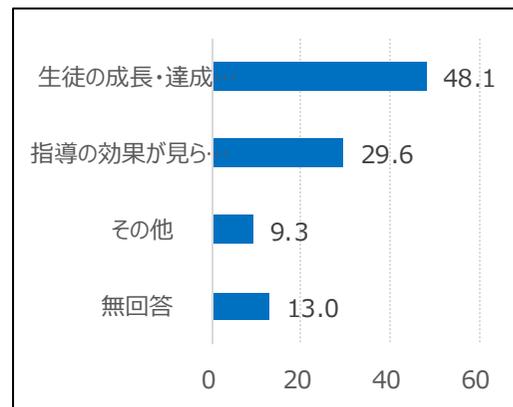
アンケート結果・参加者の声

●指導者アンケート（46人）結果

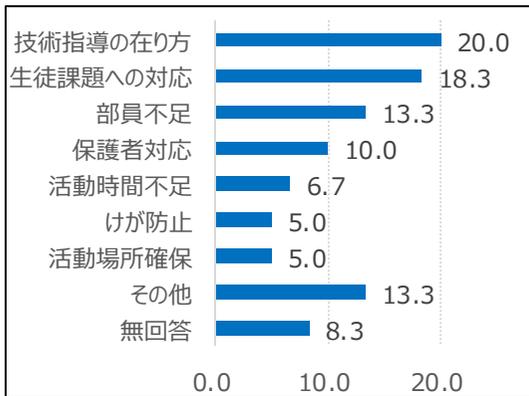
Q1.あなたはどのような活動を目指して活動していますか？（%）



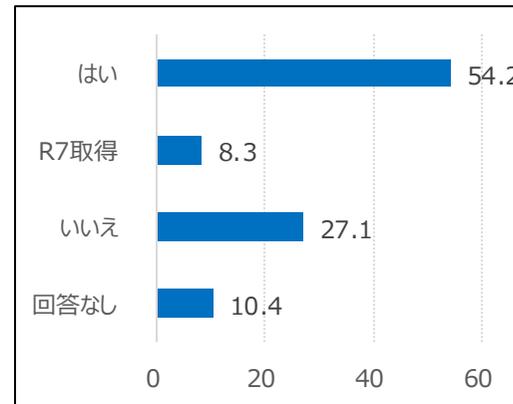
Q2.あなたが指導していて、一番のやりがいを感じていることは何ですか？（%）



Q3.あなたが指導していて、課題に感じていることは何ですか？（%）



Q4.あなたは、JSPO公認スポーツコーチ等の資格を取得していますか？（%）



●外部指導者の声

Q1.目指している活動について

- ・「生徒一人一人の技能等を把握し、楽しく活動することをいつも考えている。生徒自身に考えさせて行動する力も大切。」
- ・「技能の他にも、人としての礼儀や仲間を大切に活動への指導を心掛けている。」

Q2.指導している一番のやりがいについて

- ・「できなかったことが、ちょっとしたアドバイスで出来るようになった時の生徒の笑顔を見た時にやりがいを感じる。」
- ・「生徒一人一人が同じ目標に向かい、チームの一体感が出た時やその瞬間を共有できることが楽しい。」

Q3.指導している課題について

- ・「技能を向上させるための手立てが、その生徒に合っているものなのか、日々研鑽をしていく必要がある。」
- ・「生徒の課題（やる気・自信のなさ・無気力・人間関係）への適切な対応に悩むことがある。」

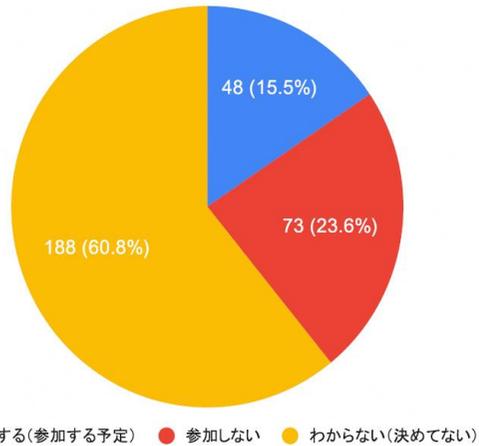
Q4.指導者資格について

- ・「顧問と部活動指導員、外部指導者との指導についての連携を図り、生徒が困らないようにすることが重要である。」
- ・「地域移行を生涯学習にする環境づくりが必要。指導者の資格を取得しやすくすること。」

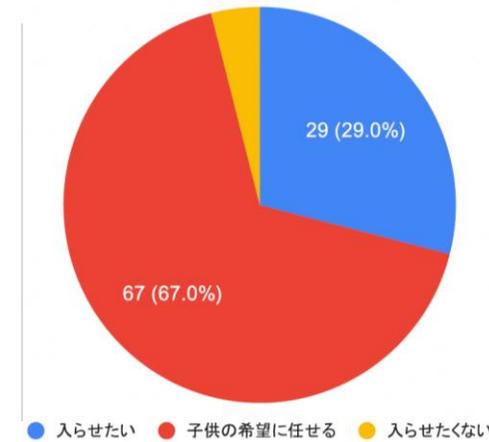
アンケート結果・参加者の声

●市内小学校5年生児童と保護者アンケート結果

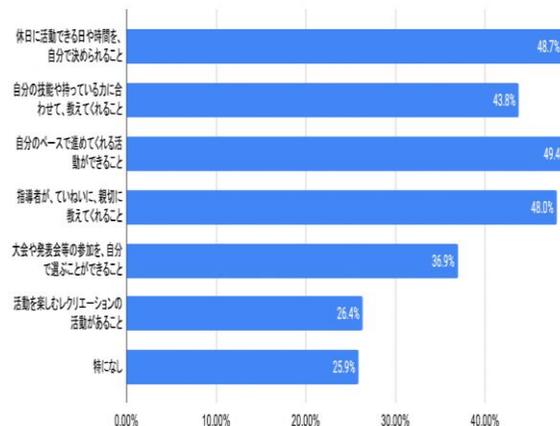
Q1.令和8年度から休日の地域クラブ活動に参加したいですか？（児童）



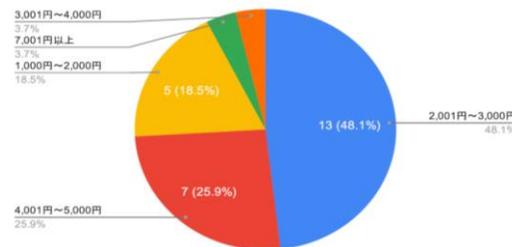
Q2.令和8年度から休日の地域クラブ活動にお子さんを参加させたいですか？（保護者）



Q3.令和8年度から休日の地域クラブでどんな活動に取り組みたいですか？（児童）



Q4.令和8年度からの地域クラブの活動費は月にいくら位が適切ですか？（保護者）



●児童・保護者アンケート結果の分析

Q1.地域クラブ活動の参加について（児童）

・休日に地域クラブで活動したい児童は15.5%、まだ決めかねている児童60.8%、活動しない児童23.6%であった。中学校に入学する令和8年度からの休日の地域クラブ活動について、まだよく捉えていない状況が浮かび上がった。

Q2.地域クラブ活動の参加について（保護者）

・児童と同様、地域クラブ活動の実態が不明のため、入部については「子ども希望に任せる」保護者が67.0%と最も多い。令和7年度の部活動や地域クラブ活動の展開を踏まえながら、家庭内でどう選択するか話題にすると思われる。

Q3.地域クラブ活動の内容について（児童）

・児童は、休日のクラブ活動について、指導者から丁寧に、自分の能力やペースに応じて指導してくれることを望んでいる。また、休日の活動について日にちや時間を選択肢することができる活動を希望する児童の割合が高い。

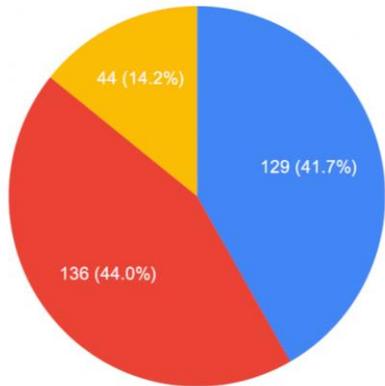
Q4.地域クラブの活動費について（保護者）

・2,001円～3,000円の負担が適切と考えている保護者が約半数を占め、約76%の保護者は安価な負担を望んでいる。実際の活動に関わる経費について、受益者負担の原則とともに丁寧な説明が求められる。

アンケート結果・参加者の声

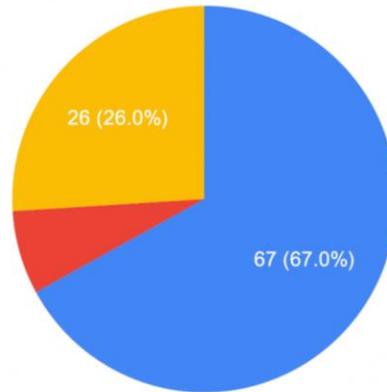
●市内小学校6年生児童と保護者アンケート結果

Q1.令和8年度から休日の地域クラブ活動に参加したいですか？（児童）



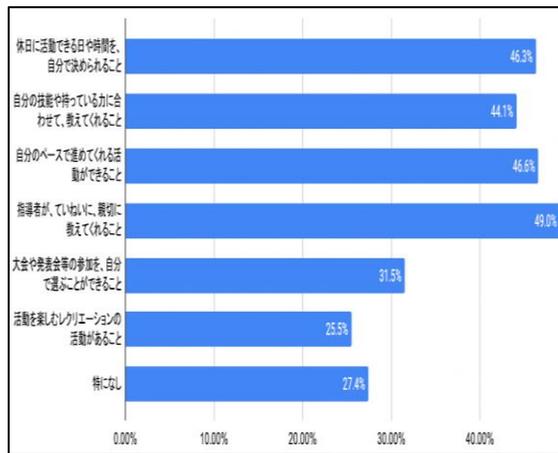
● 入る(入る予定) ● まだわからない(決めてない) ● 入らない(入らない予定)

Q2.令和8年度から休日の地域クラブ活動にお子さんを参加させたいですか？（保護者）

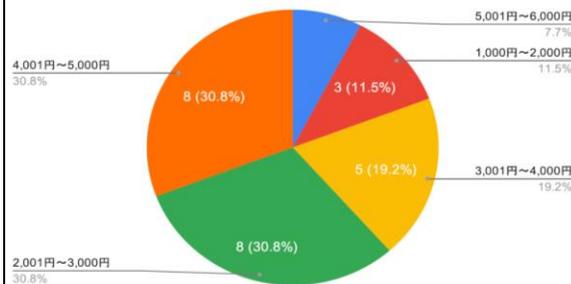


● 子供の希望に任せる ● 参加させたくない ● 参加させたい

Q3.令和8年度から休日の地域クラブでどんな活動に取り組みたいですか？（児童）



Q4.令和8年度からの地域クラブの活動費は月にいくら位が適切ですか？（保護者）



●児童・保護者アンケート結果の分析

Q1.地域クラブ活動の参加について（児童）

・休日に地域クラブで活動したい6年児童は41.7%、まだ決めかねている児童44.0%、活動しない児童14.2%であった。5年生児童に比べると、入部したい児童が約2.7倍にもなり、見通しと活動への期待が膨らんでいると思われる。

Q2.地域クラブ活動の参加について（保護者）

・子供の希望に任せる保護者は5年生の保護者と同じ割合であった。中学校入学後に、子供の選択と共に、特に地域クラブ活動に参加させたくない家庭での話し合いが想定される。家庭への選択肢の情報提供はしていきたい。

Q3.地域クラブ活動の内容について（児童）

・5年児童とほぼ同様に、指導者から丁寧で親切に、自分の能力やペースに応じて指導してくれることを6年児童も望んでいる。また、休日の活動について日にちや時間を選択することができる活動を希望する児童の割合が高い。

Q4.地域クラブの活動費について（保護者）

・5年児童の保護者より、2,001円～5,000円までの割合が80.8%で多く、ある程度の負担がかかることを想定している結果となった。受益者負担と公的負担とのバランスを考えた地域クラブ活動の運営について今後の課題である。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【東村山ファーストエンジェルス活動（ソフトボール）】



【東村山ファーストエンジェルス活動（ソフトボール）】



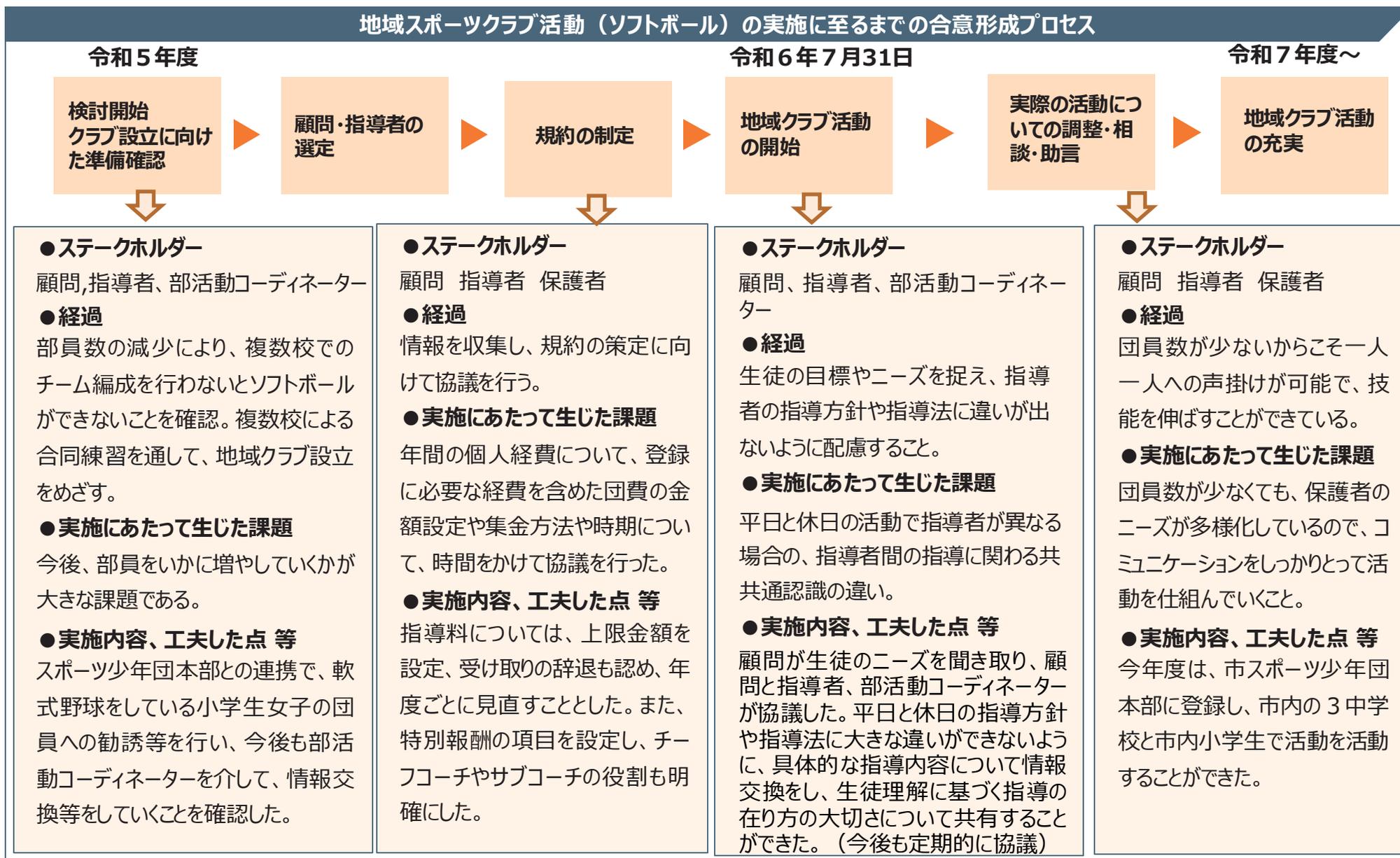
【合同部活動説明会（令和6年8月開催）】



【合同部活動外部指導者説明会（令和6年10月開催）】

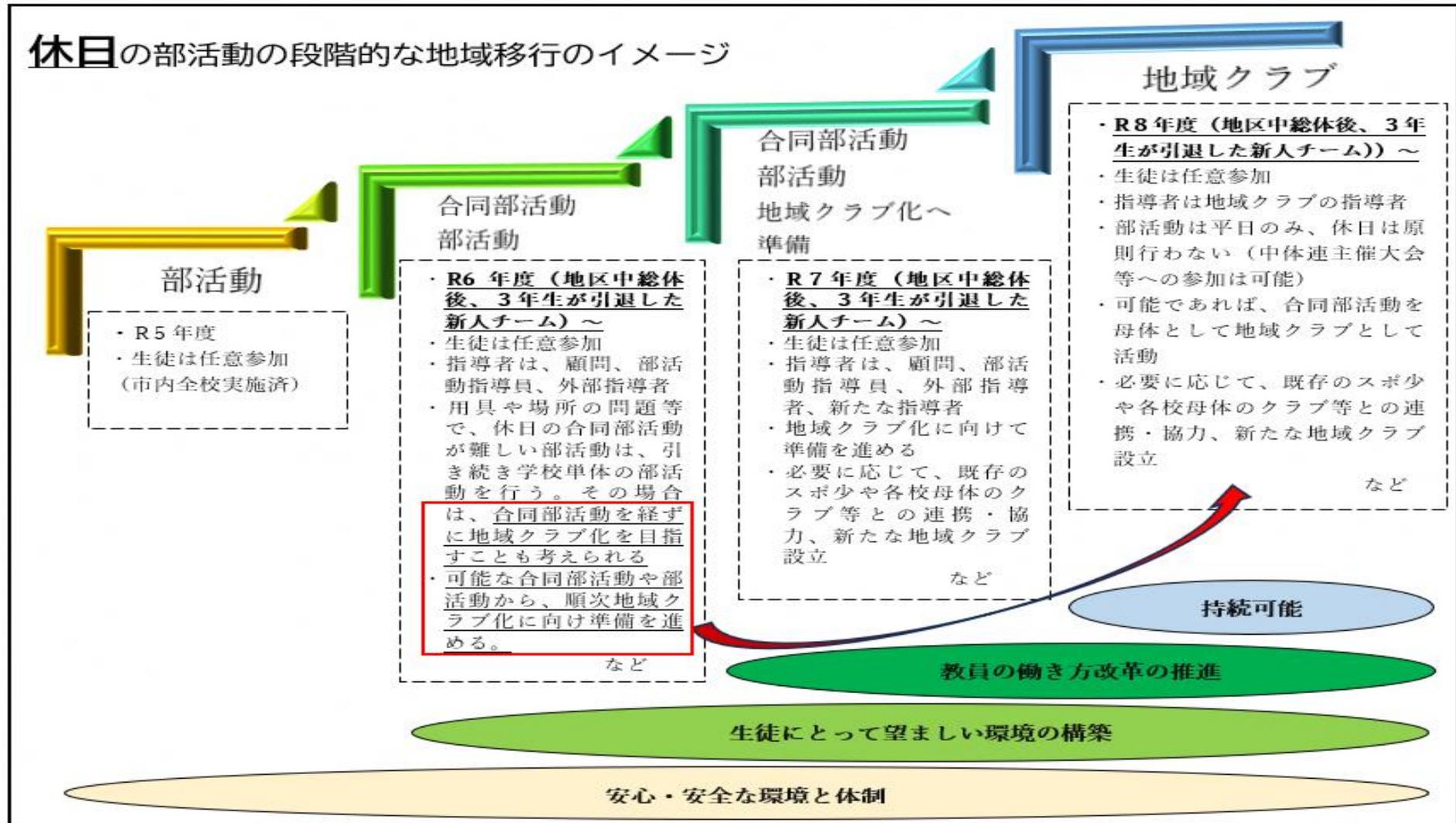
2.実証内容と成果⑤

地域スポーツクラブ活動（ソフトボール）の実施に至るまでの合意形成プロセス



地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

休日の部活動の段階的な地域移行のイメージ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県 尾花沢市

自治体名：山形県尾花沢市

担当課名：教育委員会子ども教育課教育指導室

電話番号：0237-23-3330

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	372.53 km ²
人口	13,660 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	298 人
部活動数	12 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	尾花沢市学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会の設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	中学校部活動等に関する基本方針の策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

■尾花沢市の現状

市の人口減少とともに中学生生徒数も減少傾向にあり、令和6年度298人、令和10年度279人、令和13年度には221人まで減少する見込みである。また、令和8年度には、2校の中学校が統合し1校になる予定で生徒交流を行っている。

現在、2校では週3回の部活動を実施しており令和6年度から任意加入制度及び休日活動の完全地域移行に向け、取り組んでいる。

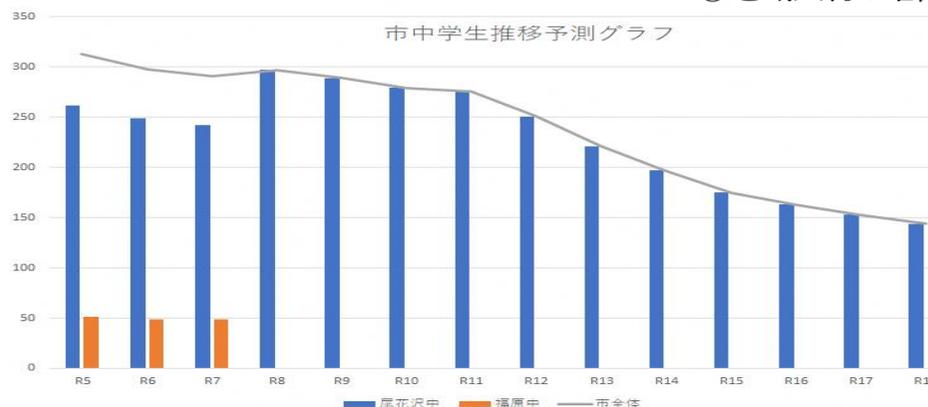
また顧問2名体制を基本としているが、教員のみ対応できないため、部活動指導員を配置し対応している。

■尾花沢市の課題

本市地勢は地の東部および南北地域は奥羽山脈に連なる起伏に富んだ山地、北西部は出羽丘陵の山並みが連なっており、公共交通については、都市部とのサービス水準格差が大きい。

部活動の活動費については、学校によって負担の在り方や種目によっての費用負担に大きな違いがあり、さらに地域活動での負担が上乗せになり費用確保も大きな課題となっている。

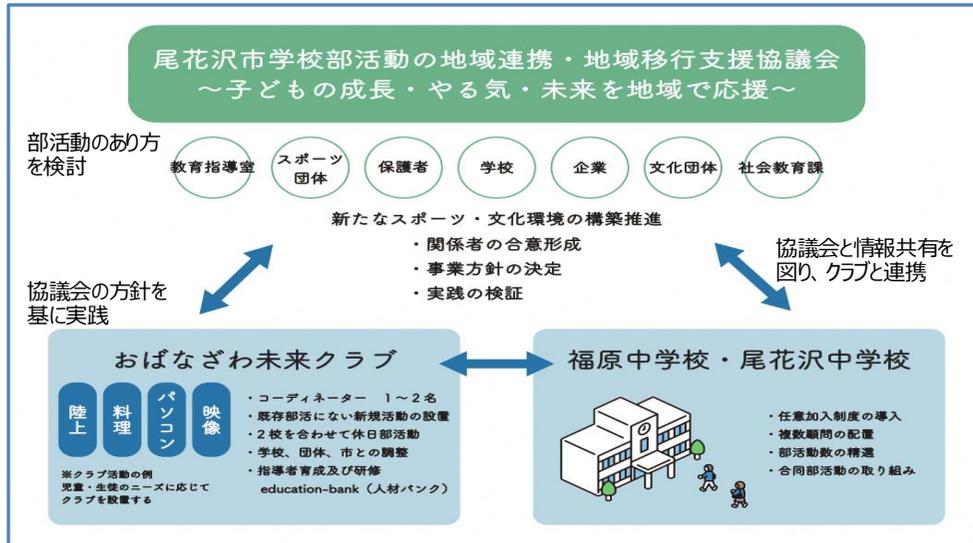
- ①山間部における生徒の移動手段の確保
- ②持続可能なクラブ運営のための経済負担増
- ③地域支援体制の整備
- ④生徒数減少による団体競技の維持
- ⑤地域人材の確保



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ① 学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会の運営
- ② おばなざわ未来クラブの設立及び地域人材の確保
- ③ 任意加入制度の導入及び生徒意向調査
- ④ スクールバスの運行

◎首長部局 市全体での支援体制支援

- ① 部活動改革に係る行政施設の無償化と調整
- ② 教育委員会及び学校との連携・調整

年間の事業スケジュール

令和6年4月

- ・「おばなざわ未来クラブ」設立及び活動開始
- ・おばなざわ未来クラブ加入説明会
- ・PTA総会説明会
- ・申込受付開始

令和6年5月

- ・スクールバス調整
- ・各競技団体登録フォロー
- ・未来クラブ説明会
- ・指導者研修会（安全講習）
- ・未来クラブ調整会議

令和6年7月

- ・学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会
- ・各種大会状況及び休日活動状況確認

令和6年9月、10月

- ・未来クラブ調整会議
- ・中学校との調整会議

令和6年11月、12月

- ・指導者研修会
- ・各クラブ保護者会

令和7年2月

- ・中学生活動実態調査

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	13クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		11クラブ（10部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	44人	全体の運営スタッフ数	45人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
おばなざわ未来クラブ	教育委員会	女子バレー ハンドボール 野球・陸上	週1回 (土曜日)	午前中	1年20人 2年26人 3年30人	通年	公共施設学校	16人	3人(教育委員会) 12人	年会費 5,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
①尾花沢剣道 ②OFC ③尾花沢わか ④尾花沢アルペン	スポーツ加入団体	剣道 サッカー クロスカントリー アルペン	週2,3回	平日： 夜間 休日： 午前中	1年8人 2年10人 3年20人	通年	公共施設学校	11人	12人	団体で設定	中体連：部活動 その他：地域クラブ
①卓翔会 ②JSC ③栗原会	保護者団体	卓球 柔道	週2,3回	平日： 夜間 休日： 午前中	1年10人 2年13人 3年12人	通年	公共施設学校	7人	9人	団体で設定	中体連：部活動 その他：地域クラブ
①男子バレー ②わいっフォックス	クラブチーム	男子バレー バスケットボール	週2,3回	平日： 夜間 休日： 午前中	1年10人 2年13人 3年12人	通年	公共施設学校	10人	9人	団体で設定	その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 指導者研修会（年2回）
- おばなざわ未来クラブ調整会議（3か月に1回）
- おばなざわ未来クラブ通信発行

2.実証内容と成果

主な取組例

●おばなざわ未来クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、野球、女子バレー、ハンドボール
運営団体名	おばなざわ未来クラブ
期間と日数	陸上：毎週土曜日 野球：毎週土曜日 女子バレー：毎週土曜日 ハンドボール：毎週日曜日
指導者の主な属性	地域人材
活動場所	尾花沢市公共施設、各中学校
主な移動手段	スクールバス、保護者対応
1人あたりの参加会費等（年額）	1, 2年生 5,000円 3年生 3,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：所属クラブの運営把握を行い、未来クラブ全体の調整を行う

●未来クラブ指導者会 4団体

役割：それぞれのクラブ活動の技術指導を行うとともに生徒同士のトラブル、いじめにも保護者、教育委員会とともに対応を行う

●運営補助者 2名

役割：施設使用、バス運行、運営費徴収及び指導者会報酬支払を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ① 学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会の運営
※委員からは受益者負担の考え方や行政支援の在り方についても検討が必要との意見が出され、継続して検討していく
- ② 休日活動受入体制整備
「おばなざわ未来クラブ」設立
- ③ 既存団体の中学生の休日活動の受け入れを協議
- ④ 部活動地域移行コーディネーター 1名の配置

取組の成果

- ① おばなざわ未来クラブの設立
学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会により部活動の在り方について休日活動受入を4つの形態に定める
 - 1 スポーツ少年団
 - 2 保護者主催団体
 - 3 クラブチーム立上げ
 - 4 おばなざわ未来クラブ
 それぞれ、保護者と指導者を別にし、保険加入を条件としている。おばなざわ未来クラブは教育委員会で運営を行い、それぞれ加入団体は保護者主体としている。
- ② 市内スポーツ団体と中学生受入れに関する協議
中学校部活動で活動している種目をスポーツ少年団や競技団体、地域人材での受入れを依頼し一部了承。4つの形態で実施していく。

おばなざわ未来クラブ活動基本方針

尾花沢市学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会

- 基本方針
少子化にあっても「自らの未来を自らの力で切り拓く、たくましい子ども達を育てる」との意識のもと、将来にわたり本市の子ども達がスポーツや文化芸術活動等に継続して親しみ、楽しむことができる環境、機会を確保することを目指していく。
生徒の中には、上位大会やコンクールを目指すだけでなく、基礎体力や社会性を身に付けたい、仲間と楽しい時間を過ごしたい、など生徒の志向が多様であることを受け入れ、勝利至上主義に傾倒することがないように、市全体で子ども達の活動を支援していく。
 - (1) 中学校2校における休日活動の地域移行を推進、支援していく
 - (2) 子ども達の多様な「やってみたい、やりたい」が可能な環境づくりに取り組んでいく
 - (3) 地域の中に子ども達の「居場所づくり」に取り組んでいく
- 運営体制について
 - (1) 事務局の設置
中学生の多様な文化芸術・スポーツ等の活動を推進するため、活動団体の円滑な運営を支援する事務局を教育委員会内に設置し、役割を以下のとおりとする。
 - ① おばなざわ未来クラブの運営
 - ② 部活動地域コーディネーターの配置
 - ③ 学校や市内外の団体との連携及び調整
 - ④ 市内中学生の活動施設の調整
 - ⑤ 地域移行やクラブ活動についての情報発信
 - ⑥ 指導者の確保及び指導者の資質向上のための年2回以上の研修会実施
 - ⑦ クラブ活動の際の交通支援
 - ⑧ 保険加入（指導者及びおばなざわ未来クラブ加入生徒分を事務局負担とし、保険適用範囲については活動中のケガ及び保護者送迎中の事故等があった場合にも適用するもの）に加入する
 - ⑨ その他

コーディネーターの具体的な動きの実績

1. 中学校PTA総会、部活動保護者会長会などで部活動改革について説明会を実施
2. 中生活動団体の状況把握を行い、各指導者との打ち合わせ会を実施
3. 各団体からの相談を受け、必要に応じ保護者会を実施
4. 3か月に1回、調整会議を行い、コーチ、保護者と情報共有を図る

今後の課題と対応方針

1. それぞれ活動団体で持続可能な運営のための課題整理を行う
2. 本来の部活動の趣旨を理解しながら、中学生の心身の健全育成の視点を持ち運営を行うよう、各団体への理解を求めていく
3. 今後も生徒数の減少が見込まれることから、広域活動や企業との連携などを検討していく

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	人材バンクの人数	登録者属性	種目	資格有無
①指導者の確保と研修 各団体の形態に応じて活動するにあたり、保護者と指導者が同一にならない体制など各団体と協議 指導は年2回の研修会に参加を調整するよう依頼 ②Education-Bankの設立 広く児童生徒の活動を支援する若手人材を確保	25名 人材バンクの年齢構成 10代 0名 20代 0名 30代 8名 40代 15名 50代 0名	市内在住者 ①起業家 ・農業、商業、工業 ②旅館業 ③芸術家 ※小中学校のキャリア教育や子供たちの心身育成に協力できる人材	■おばなざわ未来クラブ 陸上、野球、女子バレー、ハンドボール ■スポ少 サッカー、カスケート、アルペン、剣道 ■保護者団体 卓球、柔道 ■クラブチーム バスケットボール、男子バレー	■おばなざわ未来クラブ：無 ■スポーツ少年団：有 ■保護者団体：無 ■クラブチーム：有

取組の成果

令和6年4月から中学校及び顧問による伴走支援を行い、10月から休日活動の地域移行を本格稼働させた。実施するにあたり、教育委員会では令和6年4月に山形県内の全中学校に休日活動の地域移行の実施に伴う練習試合等の調整を保護者が行うことなどの周知を行った。

現在、市内2校の運動部12部活動のうち全ての活動が、休日活動の地域移行を行っている。また、指導者不足については、部活動地域移行コーディネーターが、各関係団体等へ聞き取りを行い、直接、中学生活動の趣旨等について説明した上で依頼し解消している。その際、指導者は保護者から独立し、参加する生徒間でのいじめやトラブル対応、ハラスメント根絶に向けて取り組む義務についても依頼している。



OTB



折原 麻紀さん

講演講師 不可
 職場体験 不可
 職場見学 不可

連絡先 6～8人くらい

今まで販売やパリスタをしてお客さんを持つ前から、OTBに入社してからは自ら企画・提案し営業する側となった。これまでに違う事かしてみたかったという折原さんは、これからは専任で来た人が専任を兼ねて、好きになるようなツアーを企画していきたいという思いを持つ。プライベートでは、「トクネ市」の創設メンバーであり、運営の中心的人物でもある。

IDeR LAB(イデラル ラボ)



加藤 穂介さん

講演講師 不可
 職場体験 不可
 職場見学 不可

連絡先 要相談

高校卒業後は地元企業に就職し、その間絵字や映像やデザインについて学び独立。ドローンを活用したダイナミックな映像やポスターを多く手がけるクリエイターの横もつ加藤さんは「誰もしていないことをするのが本能的に好き」とのこと。現在、商業用ドローンを使って農業を盛り上げるための奔走中。「専任から雇われる選択は人生で一度もなかった」地元愛溢れる起業家。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

参加費 無料

おばなざわ未来クラブ
指導者研修会

育成年代が知っておくべき
身体の使い方と
コンディショニングについて
(一部実技形式講義)

2024年11月23日(土)
13:30～15:00

会場 尾花沢学習情報センター
2F ハイビジョンホール

対象者 おばなざわ未来クラブ指導者
小中学生のスポーツ活動指導者
希望する小中学生

お問い合わせ
尾花沢市教育委員会 こども教育課 教育指導室
担当：倉林、伊藤
TEL: 23-3330

申込締切 11/15(金)

緊急講習 (一般救命・熱中症対策)

おばなざわ未来クラブ
指導者研修会

2024.5.29 水

会場 尾花沢市消防本部

時間 18:30～20:00

対象者 おばなざわ未来クラブ指導者
希望する中学生と保護者

申し込みフォーム

主催：尾花沢市教育委員会 こども教育課 教育指導室
尾花沢市忠實町一丁目8番25号
TEL: 0237-23-3330
shidou@city.obanazawa.yamagata.jp

後援：倉林、田中、伊藤

申込締切 5月27日
TEL: 23-666

指導者研修の参加実績

◆開催日： 5月29日 / 参加人数：22人

尾花沢市消防本部で救急係4名を講師に、心肺蘇生とAEDを使用した実践を行った。さらに熱中症対策、児童生徒を安全に活動させるための研修を実施した。参加者には参加証を交付した。

◆開催日： 11月23日 / 参加人数：19人

仙台大学体育学科 小勝健司准教授を招聘し、育成年代が知っておくべき身体の使い方とコンディショニングについて、実技を交えながら研修した。

受講者の声

◆5月29日参加

・ハンドボール指導者(男性)：ハンドボールやバレーなどの競技では、胸にボールの衝撃を受ける場合があり、その際の対応を具体的に聞いて良かった。そういった事例に合ったことがなかったので、緊張感を持って研修を受けられた

◆11月23日参加

・クロスカントリー保護者(女性)：長距離を走行するため、体力や筋力をつけるために、ひたすらトレーニングをしていました。心因性が身体にもたらす力や、効果的な筋力のつけ方など参考になりました。

・女子バレーコーチ(男性)：女子中学生は、生徒間トラブルも多く難しい対応を迫られることも多い。技術指導だけでは済まされないと改めて感じた。

今後の課題と対応方針

様々な形態の活動があるため、種目によっては勝利指導主義になっていく団体もみられる。発達段階に応じた児童生徒の心身の育成のため、広く指導者や保護者の勉強になるような研修を今後も実施していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 部活動改革における公共施設調整会議を市関係課と実施する
- 中学生活動団体は、スポ少、クラブチーム、保護者団体、おばなざわ未来クラブ等とする

- ①土曜日を中学生活動の日とし、優先的に中学生活動団体に充てる
- ②中学生団体の使用の際は、全額減免対応とする
- ③中学校2校の体育館等についても割り当てを当初から行う

取組の成果

部活動の休日活動の地域移行の説明会の際に活動場所の確保に対する不安が多く聞かれたことから、庁内での調整会議を実施し上記記載内容について担当課が条例等の改正も行いながら実施した。

夏季、冬季それぞれに施設を割り当て、変更については各団体同士で話し合うこととし調整している。なお、市の事業等により施設を活用できない場合は、半面ずつの使用や他市町村と練習を行うなどしている。

生徒の減少により合同チームで大会出場する団体競技もあり、冬季間は本市の土間体育館を活用し練習を実施している。

また、保護者負担軽減を図るため、施設の減免、スクールバス運行、スポーツ保険加入について市が負担している。

今後の課題と対応方針

- ・継続して庁内の共有を図り、中学生の活動を支援していく
- ・持続可能な各団体の運営とするために受益者負担と行政支援の在り方を検討していく

尾花沢市内中学生活動場所の調整について

目的：尾花沢市中学生の活動を支援していくため、活動場所を確保していく
 経過：①教育委員会所管施設の社会教育課、教育指導室打合せ（11月、12月実施）
 ②12/19部活動の休日活動に向けた活動場所の確保に係る調整会議（総合政策・商工観光課・社会教育課）

【現在の部活動数】※ は未来クラブ、 はスポ少での活動予定

福原中4活動	陸上	卓球	女子バレー	柔道									
尾花沢中11活動	陸上	卓球	女子バレー	剣道	ハンド	野球	サッカー	スキー	吹奏楽	バスケット	男子バレー		

【冬季間の土曜日午前中の練習】 総合運動部(7/7 チーム立上げ予定)

福原中学校	尾花沢中学校		長根山体育館		サルナート		親子土間体育館							
体育館	グラウンド	柔剣道場	体育館	グラウンド	ピロティ	柔剣道場	体育館	球場	サッカー場	館内	アリーナ	コホホコ	館内	親子土間体育館
陸上	柔道	バレー	陸上	野球	剣道	バスケ	サッカー	陸上	ハンド	吹奏楽	陸上	サッカー	野球	
バレー														

※福中卓球部は土曜日曜に練習会を実施し、福中陸上部及び福中陸上部は合同で土曜日午前中に練習会を実施する
 ※福中ピロティはL字型になっており、投球練習が可能だが、全体練習としては親子で実施
 ※バスケとサッカーは交代で使用し、バスケは長根山と宮沢小、サッカーは体育館と親子
 ※陸上とバレー（男子バレーも含む）は交代で、福原中と尾花沢中の体育館

【夏季間の土曜日午前中の練習】

福原中学校	尾花沢中学校		長根山体育館		サルナート		親子土間体育館							
体育館	グラウンド	柔剣道場	体育館	グラウンド	ピロティ	柔剣道場	体育館	球場	サッカー場	館内	アリーナ	コホホコ	館内	親子土間体育館
雨天時	柔道	バレー	陸上	野球	剣道	バスケ	野球	サッカー	陸上	ハンド	吹奏楽	-	-	-

※福中卓球部は土曜日曜に練習会を実施し、福中陸上部及び福中陸上部は合同で土曜日午前中に練習会を実施する
 ※福中野球は長根山球場を使用し、雨天時はピロティで実施
 ※雨天時は、福中の体育館使用（サッカー、陸上）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- 移動手段の確保（スクールバスの活用）
- 地域指導者と顧問の円滑な連携
- 連絡アプリを活用した調整

- ① 毎週土曜日の午前中を練習日としスクールバスを運行
- ② 前期、後期で2回の保護者会、コーチ、顧問とで調整会議を実施
- ③ 練習日程、バス利用等をアプリで管理

取組の成果

- ・毎週土曜日の午前中を「中学生活動の日」と設定し、活動場所とスクールバスを運行。また、バスの運行範囲を設定し、月2回練習試合会場に配車し、大会参加の場合は回数を制限せずに運行
- ・年度当初及び中間でおばなざわ未来クラブ指導者、保護者、顧問、教育委員会で情報交換会を実施し、現状の確認等を行っている
- ・「部活アプリ」を試行運用し、練習日程及び会場、バスの運行希望を把握し、事務局で調整を行っている
- ・現在、それぞれのクラブ事務局と協議し、LINE公式アカウントを教育委員会で取得し、調整や連絡手段として活用している



今後の課題と対応方針

- ・休日活動が学校から各運営団体へ移行したことにより、過度な活動になってしまう傾向にあり、各団体と教育委員会が常に情報共有を図り、中学生の心身の健全な育成に繋がるよう学校、地域、行政と連携を強化する
- ・本市地形によりスクールバス乗車人数が少ないが運行台数が多く、費用対効果の面での課題が多いため、検討が必要

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度から本市2校の中学校で「任意加入制度」の導入を実施するとともに2年後の統合を見据えて、2校が連携し休日活動の地域移行に取り組んだ。4月から移行期間として伴走支援を学校、顧問が行い、今年度中の完全移行を目標として取り組んだ。

部活動地域移行コーディネーターの指導者確保や部活動ごとの保護者対応など、きめ細やかな対応が移行を推進できた大きな要因である。

現在、15団体のスポーツ活動が休日に実施され、基本指定の活動場所は練習試合など調整が必要な場合は、コーディネーターと各団体間で調整し活用している。

取組みの中で課題も出てきており、スクールバス運行は、運行台数と乗車人数、運行費用を勘案すると見直しが必要であり、また事務が煩雑になっていることから次年度のアプリも併せて見直しを実施する。さらに今年度、3年生引退後に合同チームとして大会出場となった種目もあり、地域移行の実施していない学校との連携が教員にとって非常に難しい運営となったことから、学校間、行政間の連携が必要であった。

●成果の評価

- ①市内2校にある全ての部活動で休日活動の地域移行を実施
- ②指導者研修会を年2回実施し、生徒の安全な活動を推進
- ③行政支援として、休日活動の施設確保、スクールバス運行、保険加入、部活動地域移行コーディネーターの配置を実施
- ④周知活動として「おばなざわ未来クラブ通信」を発行以上、目標としていた事業をおおむね達成できた。

●今後に向けて

【検討事項】

- ①持続可能な運営のための受益者負担と行政支援の在り方について
- ②スクールバス運行及びアプリ見直しの検討
- ③生徒減少による合同チームでの中体連参加の場合の行政間連携
- ④アンケート取得による新たな活動へのトライアル活動の実施

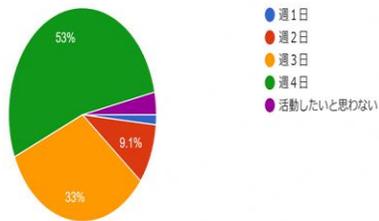
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

● アンケート結果

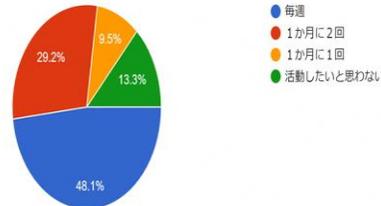
Q. 1週間のうちどれくらい活動したいと考えていますか【平日】

Q5 1週間のうちどれくらい活動したいと考えていますか？（考えていましたか？）【平日】
264件の回答



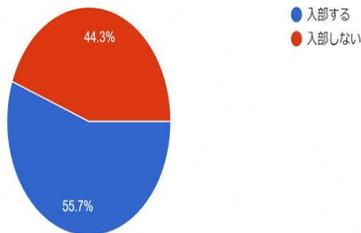
Q. 1週間のうちどれくらい活動したいと考えていますか【土曜日】

Q6 1週間のうちどれくらい活動したいと考えていますか？（考えていましたか？）【土曜日】
264件の回答



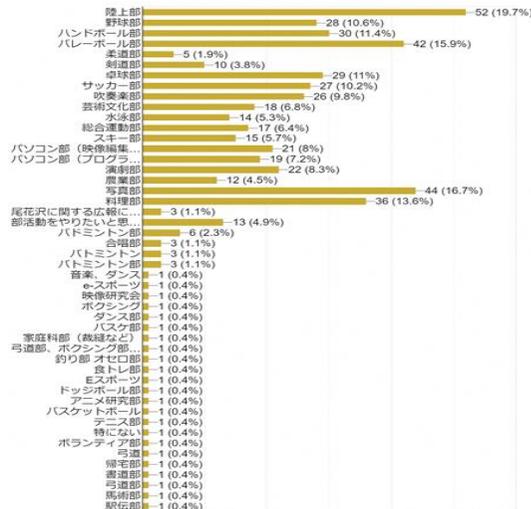
Q. 休日の部活動の入部を選択できるとしたら、入部しますか？

Q9 休日の部活動の入部を選択できるとしたら、入部しますか？
264件の回答



Q. あなたが部活動にあればやってみたい活動はなんですか？

Q10 あなたが部活動にあればやってみたいと思う活動はなんですか？（最大3つまで）
264件の回答



● 参加者の声

中学2年生男子

部活動の任意加入制度になり、これまで一緒に活動していた仲間が、他のクラブチームに入ってしまうと大幅に人数が減り、不安だった。顧問の先生とコーチが支えてくれて、新しく北村山チームの先輩方が協力してくれて、今はこのチームで勝てるよう頑張っています。

中学3年生 女子

陸上は、福原中のメンバーと一緒に活動するようになってコーチも7人いるので種目ごとに教えてもらえるのが良いです。みんなで交流芋煮会をしたり、楽しく活動しています。

バレークラブ指導者男性

顧問の先生とは常に連絡を取り合い、情報共有を図っているため、指導に問題はないと感じています。ただ、勝ちたい思いが強い生徒や保護者の方に理解してもらおうのが難しいところがあります。

ハンドボールクラブ指導者男性

仕事の関係でなかなか出れないこともあったのですが、曜日を変更することでコーチが交代で出るようにしています。また、活動場所のなかった大人のチームと一緒に練習することで生徒にも刺激となりWINWINの関係が築けています。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

■おばなざわ未来クラブ通信の発行

楽しさが伝わるようなデザインを心掛け作成している

おばなざわ未来クラブ通信
vol.1 2024.06

中学校の休日部活動の地域移行が 4月27日(土) はじまりました！
未来クラブに所属している4つのクラブを紹介しています！

野球クラブ
今年4月より中学校の休日の部活動地域移行が行われ、休日の部活動や大会の参加など今まで経験の先生がやって貰っていた事を、今度はおばなざわ未来クラブとして保護者が主体となり、関わっていくことになりワクワクドキドキの多い、大変な事になりました。それでも、みんなが笑顔であって子ども達の成長が喜ばしい気持ちをお保護者がサポートしていくことに努めます。

バレーボールクラブ
バレーボールは、6月の地区総体練習会を控えて日々練習に取り組んでいます。しかし、部活の時間も減り、また、地域移行に伴い自分の練習時間や場所も限られてきています。自分たちで練習場所や練習時間を確保し、練習に取り組んでいます。自分たちで練習場所や練習時間を確保し、練習に取り組んでいます。

■教育通信「おばなっ通信」の発行

■PTA総会などで部活動の地域移行への理解を図るためのチラシ

Education magazine「おばなっ通信」
発行日 2024年6月10日
発行部数 100部
発行先 保護者・関係者
発行先 保護者・関係者

救急処置と熱中症対策を学びました！～未来クラブ指導者研修会～
5月29日(土)、東北沢中学校体育館にて「おばなざわ未来クラブ指導者研修会」が行われました。未来クラブ所属の指導者や保護者の方、生徒など、22名の受講者が、「救急救命」と「熱中症対策」について研修しました。

■救命処置
AEDを使用した心臓蘇生について、具体的にどうすればよいかを、体験を通して研修しました。
救命処置に必要な場面では、胸骨圧迫とAEDの使用により、2分での成功率が50%、3分での成功率が50%になるそうです。

■熱中症対策
近年、社会的に大きな課題となっている熱中症対策についても講義がありました。熱中症は、めまいや頭痛、けいれんや意識障害などの症状が出て、重症化することがあります。こういった症状が出たときは速やかに対処することが大切です。熱中症が重篤化するまでの応急処置やサインシート、衣の取り扱いなどについて学びました。

■サインシート
●暑い環境に長時間居る。●衣服が乾かき、体温が高い。●水分と塩分、糖分を補給する。●病院を受診する。●詳細は熱中症予防指針を参照してください。

研修会に続き、生徒が安全に活動できるようにするための取り組みとして、ご協力いただきました香濃町本部教育委員の皆さま、ありがとうございました。

未来クラブスタートまでの道のり

今年度から中学校部活動の地域移行と、部活動の任意参加制度を導入しました。これによって保護者の皆さんが安心できるようになり、中学生にとって楽しい部活動環境が実現しました。保護者の皆さんが安心して参加できるように、教育委員会が安全を最優先としました。この取り組みは、学校の文化の新しい社会の中で、中学生の安心・安全を最優先と見直し、部活動をつくることとなります。今年、地域移行も進められている中で、様々な問題が生じてきた。保護者、地域、行政が一体となって対応を促しているのが中学校部活動の現状です。

各中学校部活動開始日の調整会議
部活動の開始日を調整するための調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

10/24 部活動の調整会議
10/24 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

10/31 部活動の調整会議
10/31 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

11/7 部活動の調整会議
11/7 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

11/14 部活動の調整会議
11/14 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

11/21 部活動の調整会議
11/21 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

11/28 部活動の調整会議
11/28 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

12/5 部活動の調整会議
12/5 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

12/12 部活動の調整会議
12/12 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

12/19 部活動の調整会議
12/19 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

12/26 部活動の調整会議
12/26 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

1/2 部活動の調整会議
1/2 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

1/9 部活動の調整会議
1/9 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

1/16 部活動の調整会議
1/16 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

1/23 部活動の調整会議
1/23 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

1/30 部活動の調整会議
1/30 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

2/6 部活動の調整会議
2/6 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

2/13 部活動の調整会議
2/13 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

2/20 部活動の調整会議
2/20 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

2/27 部活動の調整会議
2/27 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

3/6 部活動の調整会議
3/6 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

3/13 部活動の調整会議
3/13 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

3/20 部活動の調整会議
3/20 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

3/27 部活動の調整会議
3/27 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

4/3 部活動の調整会議
4/3 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

4/10 部活動の調整会議
4/10 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

4/17 部活動の調整会議
4/17 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

4/24 部活動の調整会議
4/24 部活動の調整会議を開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

4/27 未来クラブスタート
4/27 未来クラブスタートを開催しました。調整会議では、各中学校の部活動開始日について話し合いを行い、調整を行いました。

発行先：おばなざわ未来クラブ事務局 担当：齋藤、伊藤、伊藤
東北沢中学校教育委員会 教育委員会 TEL: 0237-23-3330

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【おばなざわ未来クラブ：バレークラブ練習】



【おばなざわ未来クラブ：陸上クラブ練習】

※すべての活動において地域指導者対応



【指導者研修会：安全講習】



【おばなざわ未来クラブ：野球クラブ練習試合】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●経過

- ①顧問から現状と地域移行する際の問題の聞き取りを行う
- ②部活動保護者会長会を対象に部活動改革について説明会を実施
- ③教職員向けに部活動改革について説明会を学校ごとに2回開催
- ④部活動ごとに保護者説明会を実施
- ⑤地域移行を実現するための意見交換会を保護者対象に実施

実施にあたって生じた課題

- ①生徒、保護者、顧問ともに非常に不安を感じており、「できない」という気持ちが強い
- ②団体競技における休日活動

●実施内容、工夫した点等

- ①説明会は、それぞれの立場で地域移行を検討してもらうために保護者と教員向けに別々に実施し、教育委員会主導で実施

●経過

R6.4 任意加入制度の導入
休日活動の地域移行試行
(学校・顧問による伴走支援)
おばなざわ未来クラブ設立

11 休日活動の地域移行
完全実施

●実施にあたって生じた課題

持続可能なクラブ運営のための費用負担と行政支援の在り方

●実施内容、工夫した点等

- ①部活動の地域移行コーディネーターによる地域人材の確保
- ②全庁で部活動地域移行の取組みの情報共有を行い、支援について取り組んだ
- ③連絡アプリを導入

●経過

- ・アンケート調査を実施
- ・市の部活動改革方針について協議会で現状把握を行い、必要に応じて見直しを実施

●実施にあたって生じた課題

- ・持続可能な運営のための費用負担と行政支援の在り方

●実施内容、工夫した点等

- ・学校、行政、地域の連携強化を図る

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動地域移行ロードマップ

中学校の休日活動の地域移行への準備

休日活動の地域移行の実施

実施状況の検証と将来展望

令和5年度

Step
01

休日活動の地域移行準備

- 部活動の地域連携・地域移行支援協議会の設立
- 事業説明会の開催と地域への周知活動
- 地域人材、地域事業所への事業説明と協力体制の構築

令和6年度

Step
02

休日活動の地域移行実施

- おばなざわ未来クラブの立上げ
- 任意加入制度の導入
- 休日活動の地域移行実施
- 中学生活動場所の確保に係る庁内調整
- スクールバス運行調整
- アプリ導入

令和7年度

Step
03

中学校現状調査及び地域クラブ活動の拡大に向けての取組み

- 生徒、教員、保護者へのアンケート調査の実施
- 持続可能なクラブ運営のための費用負担と行政支援の在り方検討
- 新規クラブ立上げのための地域人材、事業所との連携強化

長期
ビジョン

10年後の生徒数減少にあっての活動

- 広域活動のための市町村連携
- ビジネス事業の活用 等